



2019年度版

# 東洋大学 ボランティア支援室年報

TOYO University Volunteer Support Office 2019 Annual Report



東洋大学

# 東洋大学ボランティア支援室開設3年の活動について

ボランティア支援室長 森田 明美

東洋大学は、教育理念の中で「主体的に社会の課題に取り組む」人間の育成を大きな柱としてきました。また、前身である哲学館の創立直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。このように東洋大学は、社会貢献を建学の精神を具現するための柱の一つとし、人材育成をしてきた大学です。

そして、21世紀の大学にとって、地域社会から厚い信頼を受け支援されることが必要条件で、そのためにも積極的な社会貢献を進めることが期待されています。それは地域社会のためであると同時に、大学自身のためでもあると言えます。本学は、3万人超の学生を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を供出し、これらを必要としている地域に支援を届ける1つの方法が、学生によるボランティア活動であると思われまます。

東洋大学では、既に様々なボランティア活動が展開されています。複数の学生団体、教員・学生によるゼミ他の活動は、多岐に亘ります。しかし、対外的に見ればこれら全てが東洋大学のボランティア活動となります。これらの活動を一元的に把握する部署がないため、今、どこでどのような団体が、どういった活動をしているか、大学全体としては、把握できていないのが現状でした。

そこで、これらの活動をはじめめる前に、ボランティア支援室にお知らせいただき、情報が閲覧できる環境を整えるとともに、これらを把握し、本学の活動を外部に発信していくことにより、社会貢献活動の一層の充実を図ることに繋がるのではないかと考え支援の仕組みを作りました。

2017年度ボランティア支援室開設初年度の学生支援は、手探りでしたが、白山キャンパス2万人の学生に対し、ボランティア活動を希望する学生への相談対応を中心に行いました。

また、本学の学生にボランティアとして来てもらいたい団体の申し込み受付および相談窓口となり、適切な場所に学生を送り出していきました。実際、ボランティア活動に出て行く学生の安全確保のためには、大学としても受け入れから、準備、実施中の相談、とりわけ危機管理体制の構築を含む多様なバックアップ体制の整備が不可欠です。大学が学生のボランティア活動を支援しなければ、学生の様々な活動は発展せず、大学生の協力を必要としている方々へ活動を届け続けるのは難しい状況になります。

そこで、これらの活動を実施するために専門のスタッフを配置し、ボランティア先の開拓、学生とのマッチングに加え、実施後の検証、まとめ、実施報告などを連続的に実施してきました。また、ボランティア支援室では、大学のボランティア活動の中期・長期的な方向性を策定し、さらに学生や卒業生、地域に向けた様々な企画を検討することで、大学が設置するボランティア支援室の機能を果たしてきました。前述の活動は、ボランティア支援室に設置した専門部会や運営委員会の先生方を中心に検討を重ね、学生に対するボランティア活動の支援策を策定してくださいました。

ボランティア支援室の開設は、多くの教職員の方々に支えられながら、学内にボランティア活動の拠点を組織化するための挑戦でした。

3年目の2019年度の活動は、東洋大学学生課外活動育成会費などを更に活用し、活動を充実しました。また、初めてボランティア活動をする学生の支援としてToyo 1Day ボランティアの実施やボランティア支援室の活動に学生の声を反映させるために学生イベントスタッフを育成し様々な企画に協力を得ました。また、東洋大学ボランティアWEEKでは、人権週間を含む15日間に人権尊重やボランティアに関する講座を全キャンパスで開講しました。この他にも学生と教員の協働活動は様々な地域と分野で展開しています。どうぞご一読いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

# 目次

東洋大学ボランティア支援室開設3年の活動について	1
--------------------------	---

目次	2
----	---

## 活動内容

2019年度ボランティア支援室活動内容・利用状況	4
--------------------------	---

### 【各企画概要】

① ボランティア支援室ガイダンス	12
② ボランティア入門講座	14
③ ボランティアサークル合同説明会 in 朝霞	15
④ ボランティアサークル合同説明会 in 白山	16
⑤ Toyo 1Day ボランティアプログラム	18
⑥ 東洋大学ボランティアカフェ（ボラカフェ）	30
⑦ 「デイキャンプで遊ぼう」	46
⑧ 「福島県いわき市の漁業の現状を発信する」 福島県特産物販売会	48
⑨ 「福島県いわき市の農業の現状を発信する」	49
⑩ 「福島県の子どもに寄り添うプログラム」	51
⑪ 「東洋大生の知らない LGBT の世界～ユニバーサルマナー講演～」	52
⑫ 「予測できない大地震、あなたはどうか備える？～首都直下型地震に備える！ 東洋大学宿泊サバイバル体験2019～」	54
⑬ 「被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地支援のあり方 in 南三陸」	57
⑭ 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座	60
⑮ 夏のボランティア相談会	61
⑯ 宿題サポート ～みんなでたくさん学び、遊び、話そう！（飯能市）	62
⑰ 東京オリンピック・パラリンピック大会の競技場などを巡る 2019年度ベニューツアー	64

⑱ 東洋大学ボランティア WEEK 2019 .....	66
⑲ 中野区 少年少女野球教室 .....	78
⑳ 東洋大学ボランティア支援室× SON コラボ企画 「東洋大学 学園祭で遊ぼう (YA プログラム) !!」 .....	79
<b>【ボランティア支援室各企画資料】</b> .....	80
<b>【資料・記録】 ボランティア支援室について</b>	
ボランティア支援室ガイダンスの実施 .....	92
東洋大学ボランティア支援室要項 .....	93
ボランティア支援室運営委員会委員名簿・専門部会委員名簿・外部評価委員 .....	96
ボランティア支援室専門部会活動記録 .....	98
ボランティア支援室外部評価 .....	99

# 2019年度ボランティア支援室活動内容・利用状況

## ボランティア支援室における活動を振り返って

東洋大学ボランティア支援室は、開設3年目を迎え、以下の取り組みを重点的に行いました。

### 【主な取り組み】

#### 1 ボランティア活動情報の全学生への発信

ボランティアを求めている NPO / NGO、民間団体、各自治体などから届いたボランティア活動情報を、ボランティア支援室内に掲出するほか、全学生がアクセスできる学内向け情報システム ToyoNet-ACE で適宜紹介しました。

学内向け情報システム ToyoNet-ACE を活用することで、ボランティア支援室が設置されている白山キャンパス以外のキャンパスの学生にも情報を届けることができました。

#### 2 ボランティア・コーディネーターによる相談対応

「どんな活動をしたらいいのかわからない」「ボランティア活動をする上での疑問点」「そもそもボランティアって何をやるの？」など、不安や疑問に感じていることなどを気軽に相談できるようにするために、ボランティアや NPO 活動が豊富なボランティア・コーディネーターを配置し相談対応を実施しました。

#### 3 ボランティア活動促進のための講座、イベント等の実施

さまざまなボランティア活動に参加するために必要となる知識や技能を学ぶとともに、実際に体験できるイベントなどを、年間を通じて実施しました。

新たな試みとして、4月から6月にかけ、「Toyo 1day ボランティアプログラム」と称し、1日体験型ボランティアプログラムを企画。7プログラムを企画し（うち1つは雨天中止）のべ101名の学生が参加しました。

12月には、人権週間に合わせた「ボランティア WEEK2019」（後援：法務省、東京法務局）を前年度に引き続き開催しました。人権週間を含む15日間の間に、人権尊重やボランティアに関する「講義・シンポジウム」「映画会」「学生企画」「展示」などを、4キャンパス（白山、朝霞、川越、板倉）で実施しました。また、期間中に、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本との協定イベントとして、「障害者週間シンポジウム―「ユニファイドスポーツ®」を知っていますか？～パートナーの魅力と意義、そして共生社会の実現へ～」を開催し、有森理事長や竹村学長の講演のほか、実際に活動に参加している4名の東洋大生とのディスカッションなどを行いました。

#### 4 授業等におけるボランティアガイダンス・支援室見学ツアーの実施（コーディネーター派遣）

ボランティア支援室のボランティア・コーディネーターを授業に派遣し、ボランティア活動に関する入門的な講義・ワークショップやボランティア支援室見学ツアー、コメントーションなどを合計12回実施しました。このことがきっかけとなり、学生が支援室を訪問したり、ボランティア活動の相談に結び付いたりするケースも見られました。

#### 5 イベントサポートスタッフ

学生のボランティア活動や社会貢献活動に関する理解を深めることと、ボランティア支援室の活動の学生へのアプローチ力を高めるための試みとして、今年度初めて、ボランティア支援室のイベントサポートスタッフとして5名の学生を迎えた活動を展開しました。

前半は、1 day ボランティアプログラムやボランティアカフェなどの活動場所に赴き、ボランティア支援室公式ウェブサイトへのレポート執筆などを中心に行うことで、ボランティア支援室の取り組みやボランティア活動についての理解をすすめました。

後半は、ボランティア WEEK2019期間中に、サポートスタッフ自らが企画運営を行うイベントをつくりあげることが目標として活動しました。最終的に映画上映会の形態で企画が実施され、17名の学生を集め成功裡に終わりました。

## 6 交流会の実施

昼食を持ち寄って気軽に情報交流を行う「ボラカフェ（ボランティアカフェ）」を白山キャンパスにおいて10回実施しました。イベントサポートスタッフがウェブサイトにて報告記事を作成したほか、サポートスタッフが自らゲストとの調整をすすめ開催した会や、学生側からボラカフェの話題提供者への名乗りを挙げてもらえる動きも見られました。

また、白山キャンパス・朝霞キャンパスにおいては、学生ボランティア団体が中心となって運営する形でサークル合同説明会を実施しました。

## 7 活動支援

今年度は「社会貢献活動プロジェクト助成」制度を導入し、国内外でボランティア活動など社会貢献活動を行う学生団体への資金助成を行い、7団体が採択されました。

ToyoNet-ACE では、学生ボランティアサークルからのお知らせを配信する専用チャンネルを作成し、情報発信の面での支援を行いました。

## 8 災害対応

今年度は、台風15号、台風19号などの大規模自然災害が発生しました。近隣地域においても災害ボランティア募集が行われていたことから、10月のボラカフェでは緊急開催として、台風19号での災害ボランティア活動を検討している学生に向けて、安全衛生に関する情報提供を、防災教育コンサルタントの方を迎えて実施しました。

ToyoNet-ACE においても専用チャンネルを設け、災害ボランティア活動に関する情報発信を継続的にを行い、配信した災害救援ボランティア活動に参加した本学学生が30名ほどありましたが、本学学生が自発的にすすめるボランティアプログラムを企画するには至りませんでした。

## 9 SDGsに関連した取り組み

ボランティア WEEK2019では、「『世界がもし100人の村だったら』ワークショップ」を、認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）の協力のもと企画し、SDGs を直感的に理解するためのきっかけを提供しました。

また、既に学生が SDGs を意識した取り組みを進めていたことから、ボランティア WEEK2019期間中に実施したボラカフェにおいて、学生の SDGs アクションをテーマにした会を実施。このことがきっかけとなり、学生の SDGs アクションの情報集約をすすめるためのプラットフォームが、学生の呼びかけのもと発足しました。

## 10 他機関・地域・他大学等との連携

大学間連携災害ボランティアネットワークが主催する、宮城県での夏季集中ボランティア活動（夏ボラ）に、今年度も東洋大学から5名の学生が参加。学生リーダーとして、イベントサポートスタッフの1名がオリエンテーションやふりかえりなどの企画運営を担い、東洋大学からの参加者を取りまとめました。

関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク（KAGAVOCO）が主催する「KAGAVOCO ボラセン EXPO」に、イベントサポートスタッフの学生と共に参加。大学ボランティアセンターで活動する学生スタッフ（学生コーディネーター）の役割について理解を深め、イベントサポートスタッフの取り組みの方向性について深める契機となりました。

## 11 その他

各イベントの実施においては、ボランティア支援室だけではなく、学生部等、関係する部署との連携・協働に力を入れました。

ボランティア・コーディネーター 林 大介  
日比野 勲

## 2019年度 ボランティア支援室活動状況

月	日	種別	業務内容
4月	5日	★ イベント	ボランティア支援室ガイダンス実施
	13日	★ イベント	● 1 Day ボランティア さきちゃんちで遊ぼう！（見学会） こもれびの森 里山支援隊
	15日	★ イベント	ボランティア入門講座
	16日	◆ ガイダンス (授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース:Aコース]
	17日	● 会議	第1回 ボランティア支援室専門部会
	18日	★ イベント	【朝霞キャンパス】ボランティアサークル合同説明会
	21日	★ イベント	● 1 Day ボランティア スペシャルオリンピックス～ユニ ファイドワークショップ～スタディツアー
	22日	★ イベント	ボランティアカフェ
	22日	◆ ガイダンス (授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」 [実施コース:Aコース]
	23日	★ イベント	ボランティアカフェ
	23日	◆ ガイダンス (授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」 [実施コース:Aコース]
	25日	★ イベント	【白山キャンパス】ボランティアサークル合同説明会
	27日	★ イベント	● 1 Day ボランティア おたがいさま食堂 in さきちゃんち
	27日	★ イベント	● 1 Day ボランティア あらかわクリーンアップ活動⇒雨天中止
	5月	3日	★ イベント
4日		★ イベント	● 1 Day ボランティア カンボジアフェスティバル2019
5日		☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 & ● 1 Day ボランティア デイキャンプで遊ぼう会
7日		◆ ガイダンス (授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習 A2」 [実施コース:Aコース]
9日		★ イベント	● 1 Day ボランティア 寺子屋子ども食堂・王子
11日		★ イベント	● 1 Day ボランティア カンボジアフェスティバル2019 事後学習会
14日		◆ ガイダンス (授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習 A5」 [実施コース:Aコース]
16日		◆ ガイダンス (授業協力)	社会学部授業「ボランティア活動入門」 [実施コース:Aコース]
17日		◆ ガイダンス (授業協力)	社会学部授業「ボランティア活動入門」 [実施コース:Aコース]
20日		★ イベント	ボランティアカフェ
20日		★ イベント	● 1 Day ボランティア 寺子屋子ども食堂・王子
21日		◆ ガイダンス (授業協力)	文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」 [実施コース:Aコース]
29日		● 会議	第2回 ボランティア支援室専門部会
30日	★ イベント	ボランティアカフェ	
6月	3日	★ イベント	● 1 Day ボランティア 寺子屋子ども食堂・王子
		☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画（2018年度企画の一環） 【川越キャンパス】福島県特産物販売
	9日	★ イベント	● 1 Day ボランティア 緑の高尾山に行こう！ （引率ボランティア さきちゃんち）※雨天のため予定変更

月	日	種別	業務内容
6月	10日	★ イベント	● 1 Day ボランティア 寺子屋子ども食堂・王子
	11日	★ イベント	ボランティアカフェ
	13日	☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 (2018年度企画の一環) 【白山キャンパス】 福島県特産物販売
	15日	★ イベント	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座
	24日～ 7月4日	★ イベント	夏のボランティア相談会
	25日	◆ ガイダンス (授業協力)	社会学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」 [実施コース:Aコース]
		★ イベント	ボランティアカフェ
26日	● 会議	第3回 ボランティア支援室専門部会	
7月	1日	★ イベント	ボランティアカフェ
8月	6～7日	★ イベント	宿題サポート～みんなでたくさん学び、遊び、話そう！～ (飯能市)
	8～10日	☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 福島県いわき市の農業の現状を発信する
	10日	★ イベント	東京オリンピック・パラリンピック大会の競技場などを巡る 2019年度ベニュー・ツアー
	20～ 22日	☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 福島県の子どものに寄り添うプログラム
9月	7～8日	☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 福島県いわき市の農業の現状を発信する 販売会 (館林市)
	24日	● 会議	第4回 ボランティア支援室専門部会
10月	25日	● 会議	第5回 ボランティア支援室専門部会
	28日	◆ ガイダンス (授業協力)	ライフデザイン学部生活支援学科授業「社会貢献活動入門」 [実施コース:Bコース]
	31日	★ イベント	ボランティアカフェ「台風19号災害ボランティアに行く前に！」 (外部講師によるレクチャー)
11月	4日	★ イベント	SON × 東洋大学コラボ企画 東洋大学学園祭で遊ぼう (YA プログラム)
	28日	★ イベント	ボランティアカフェ
	30日	☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 東洋大生の知らない LGBT の世界～ユニバーサルマナー講演～
	30日～ 12/1日	☆ イベント	● 東洋大学学生課外活動育成会企画 予測できない大地震、あなたはどうか備える？～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験2019～
12月	1日～ 14日	★ イベント	ボランティア WEEK ～人権とボランティアについて考えよう～
	3日	★ イベント	[朝霞]「学校の中の人権問題～”ブラック校則”を考える」
		★ イベント	[白山]『ポバティー・インク』上映会
	5日	★ イベント	[白山]〈障がい者週間シンポジウム〉SO × 東洋「ユニファイドスポーツ」を知っていますか？
	10日	★ イベント	[朝霞]『さとにきたらええやん』上映会
		★ イベント	[川越]「CSR 論 / 環境コミュニケーション論」「企業と人権」
★ イベント		[白山]「貧困と社会的排除 / 貧困論」	

月	日	種別	業務内容
12月	12日	★	イベント [白山] ボランティアカフェ
	13日	★	イベント [板倉] 「医療を受ける権利」
		★	イベント [白山] 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「世界がもし100人の村だったら」
2月	14～16日	☆	●東洋大学学生課外活動育成会企画 被災地出身の大学生と東洋大学生が取り組む被災地支援のあり方 in 南三陸
3月	1～2日	☆	●東洋大学学生課外活動育成会企画 福島県いわき市の漁業の現状を発信する ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

【種別】

- 会議
- ★ イベント (ボランティア支援室企画)
- ☆ イベント (東洋大学学生課外活動育成会企画)
- ◆ ガイダンス (授業協力)
- ◇ その他

その他ボランティアコーディネーター、担当職員の外部視察および外部研修等参加

月	日	種別	業務内容
8月	2日～3日	▲	視察・引率 大学間連携「夏ボラ」気仙沼クール参加者を対象とした、「気仙沼みなとまつり2019」スタディツアー
	16日	▲	参加 「学生子ども食堂ネットワーク全国大会プレイベント」(ビジネスプラザさいたま)
	29日	▲	参加・引率 関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク「KAGAVOCO ボラセン EXPO2019」(大阪府立大学 iSite なんば)
9月	11～12日	▲	参加 NPO 法人ユースビジョン「大学ボランティアセンター全国フォーラム2019」(首都大学東京)
	29日	▲	視察・引率 「グローバルフェスタ JAPAN2019」(お台場センタープロムナード)
12月	14日	▲	参加 「第9回大学間連携災害ボランティアシンポジウム」(東北学院大学土樋キャンパス)
2月	7日～9日	▲	参加 東京ボランティア・市民活動センター「市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2020」(飯田橋セントラルプラザ)
	15日	▲	参加 「大学SDGs Action Awards2020」(渋谷 QWS)
	23日	▲	参加・引率 関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク「KAGAVOCO サロン2020 春」(関西学院大学梅田キャンパス)
3月	6～8日	▲	参加・登壇 「第2回全国学生ボランティアフォーラム」参加および、テーマトークセッション(中間支援)での登壇(国立オリンピック記念青少年総合センター) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

【種別】

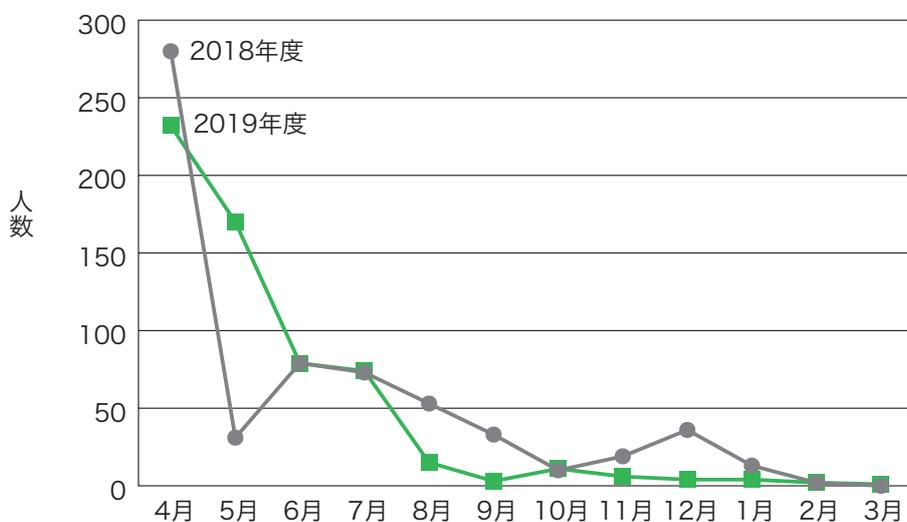
- △ 視察
- ▲ 参加

## ボランティア支援室 2019年度 利用状況報告

### (1) 学部別ボランティア支援室来訪者数（人数）

所属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山キャンパス													
文学部	163	2	4	4	1	0	4	1	3	2	0	0	184
経済学部	5	2	6	2	2	0	0	3	0	1	0	0	21
経営学部	3	3	3	0	2	0	2	0	1	0	0	0	14
法学部	3	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8
社会学部	41	142	44	62	8	1	3	1	0	1	0	0	303
国際学部	8	17	2	1	1	1	1	0	0	0	2	0	33
国際観光学部	3	2	6	0	0	0	1	1	0	0	0	0	13
赤羽台キャンパス													
情報連携学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
板倉キャンパス													
生命科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食環境科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝霞キャンパス													
ライフデザイン学部	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
川越キャンパス													
理工学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合情報学部	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
その他													
通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
不明	0	0	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	232	170	79	74	15	3	11	6	4	4	2	1	582
(参考) 2018年度	280	31	79	73	53	33	10	19	36	13	2	0	629

ボランティア支援室 学生来訪者数（月別推移）



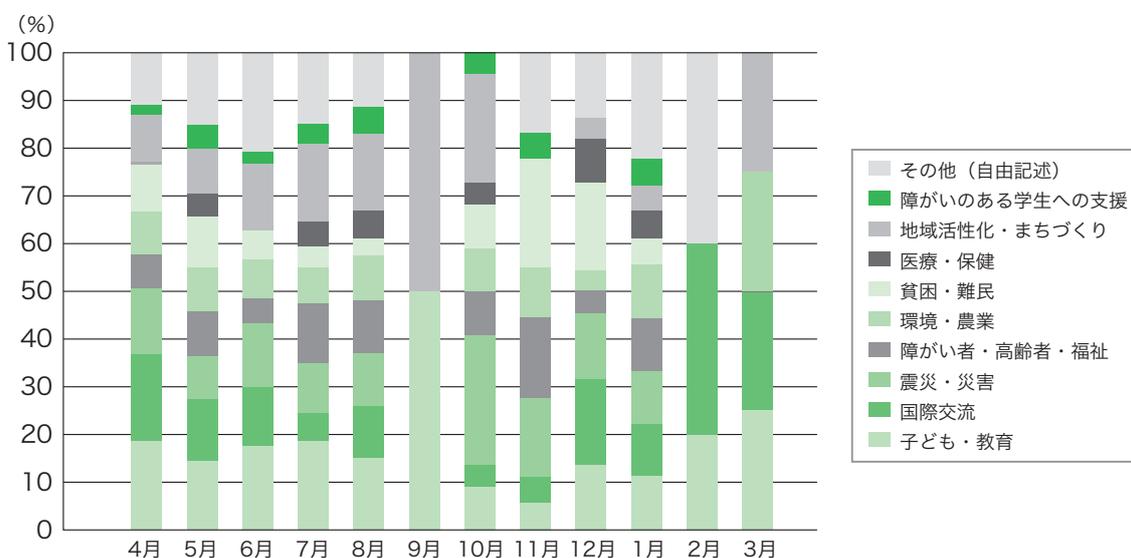
(2) ボランティア支援室来訪者の紹介経路（件数）※複数回答を含む

紹介元	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
Toyonet-ACE( グク チカサプリ )	16	5	8	6	4	0	2	0	1	1	1	0	44
ボランティア支援室 主催ガイダンス	2	3	3	14	3	0	2	0	0	1	0	0	28
学内掲示板	4	4	6	2	1	0	2	1	0	3	0	0	23
教職員からの紹介	4	8	8	37	4	0	0	2	1	1	0	0	65
サークルからの紹介	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
友人・知人からの紹介	11	3	4	6	3	0	1	0	2	1	0	0	31
東洋大学ホームページ	5	3	3	6	2	1	1	1	1	1	0	0	24
その他	1	4	3	8	0	0	1	0	0	0	0	1	18

(3) 学生が興味を持ったボランティア活動分野（件数）※複数回答を含む

カテゴリー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	27	15	21	45	8	1	2	1	3	2	1	1	127
国際交流	26	14	15	15	6	0	1	1	4	2	1	1	86
震災・災害	20	9	16	25	6	0	6	3	3	2	0	0	90
障がい者・高齢者・ 福祉	10	10	6	31	6	0	2	3	1	2	0	0	71
環境・農業	13	10	10	18	5	0	2	2	1	2	0	1	64
貧困・難民	14	11	7	11	2	0	2	4	4	1	0	0	56
医療・保健	1	5	0	12	3	0	1	0	2	1	0	0	25
地域活性化・まちづ くり	14	10	17	41	9	1	5	0	1	1	1	1	101
障がいのある学生へ の支援	3	5	3	10	3	0	1	1	0	1	0	0	27
その他（自由記述）	16	16	25	36	6	0	0	3	3	4	2	0	111

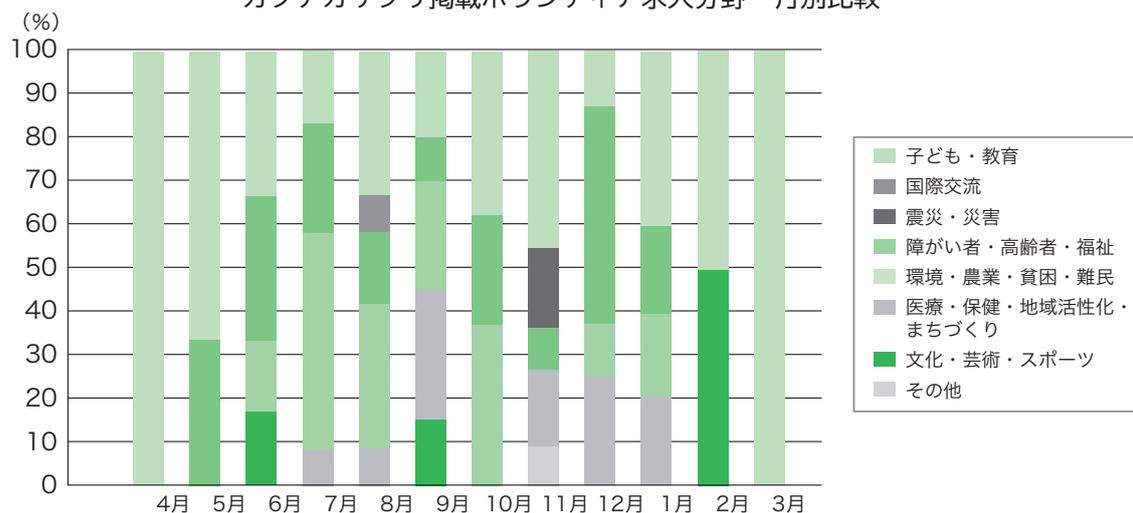
学生が興味を持ったボランティア活動分野 月別比較



## (4) ToyoNet-ACE ガクチカサプリ掲載ボランティア求人数 (件数)

分野	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	4	4	2	2	4	2	3	5	1	2	1	1	31
国際交流	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3
震災・災害	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
障がい者・高齢者・福祉	0	2	2	3	2	1	2	1	4	1	0	1	19
環境・農業・貧困・難民	0	0	1	6	4	4	3	0	1	1	2	5	27
医療・保健・地域活性化・まちづくり	0	0	0	1	1	2	0	2	2	1	0	0	9
文化・芸術・スポーツ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
総件数(月別)	4	6	6	12	12	10	8	11	8	5	5	8	95
(参考) 2018年度	8	16	51	13	0	3	6	4	0	2	2	4	109

ガクチカサプリ掲載ボランティア求人分野 月別比較



## (5) ToyoNet-ACE ガクチカサプリ閲覧者数 累計数

集計期間	閲覧者数 (人)
2019年 4月	15,492
5月	8,577
6月	7,361
7月	7,848
8月	1,729
9月	4,882
10月	7,289
11月	5,906
12月	6,015
2020年 1月	5,380
2月	3,048
3月	3,202
計	76,729

※2018年度 累計 61,871

ボランティア支援室イベント

# ① ボランティア支援室ガイダンス

開催日時	2019年4月5日（金）①12:30～13:30 / ②17:30～18:30
開催場所	東洋大学 白山キャンパス 5号館地下1階 5B12教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生を中心に東洋大学にボランティア支援室が開室（2017年4月1日）したことを広く学生に知らせ、存在を知ってもらう。</li> <li>・東洋大学の学生が取り組んでいるボランティア活動、NPO 活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	①12:30～13:30 54名 ②17:30～18:30 50名

活動内容  
(概要)

4月5日（金）白山キャンパス5号館5B12教室において、ボランティアガイダンスを実施しました。

ガイダンスは12時30分～13時30分に実施した第1部と、17時30分～18時30分の第2部の計2回行い、第1部には54名、第2部には50名の学生の参加がありました。

第1部では、まず初めに「学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクト助成」に応募した3団体によるプレゼンが行われました。これは学生の社会貢献活動推進のために2019年度より創設されたもので、第1次書類審査を通過した3団体が第2次審査として行ったものです。

そして、いずれの回も、前半はコーディネーターよりボランティア支援室の紹介を行い、後半は学生ボランティアサークルによるサークル紹介を行いました。ガイダンス終了後、早速各サークルへ個別に詳しい話を聞きに行く新入生の姿も見られました。

内 容

- (1) 本学ボランティアコーディネーターによるボランティア支援室の紹介
- (2) 学生ボランティアサークル・団体による活動紹介





## ボランティア支援室イベント

## ② ボランティア入門講座

講 師	日比野 勲（ボランティアコーディネーター）
開 催 日 時	2019年4月15日（月）16:30～18:00
開 催 場 所	東洋大学白山キャンパス 甫水会館 3階 301教室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に関心があるが、一步を踏み出すのに躊躇している学生向けにボランティアとは何か、どのような関わり方があるか等を知ってもらう。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参 加 者 数	10名

活動内容  
(概要)

白山キャンパス甫水会館301教室において「ボランティア入門講座」を、以下のとおり実施しました。

## 内 容

講座の中では、ボランティア支援室の紹介、ボランティア活動の特徴と種類、ボランティア活動への参加の方法、ボランティア（個人）とNPO（組織）との関係、ボランティア活動と奉仕活動の違い、2020年東京オリンピック・パラリンピックのボランティア活動などについてお話ししました。

受講後の感想には、「ボランティアについての基本が良く分かりました。」「今まで自分のことに一生懸命で社会にあまり目を向けてこなかったけれど、様々な活動をして社会と、そして自分のコミュニティ・人脈づくりをしていけたらいいなと思います。」といったことが寄せられました。

### ③ ボランティアサークル合同説明会 in 朝霞

開催日時	2019年4月18日（木）12:00～15:00
開催場所	東洋大学 朝霞キャンパス 講義棟1階 学生ホール
目的	・各サークルのボランティア活動、NPO活動、社会貢献活動を知ってもらい、新入生・在学生のサークルへの加入を促進し、本学のボランティア活動を促進・活性化する。
参加者数	約60名
出展サークル	・学生ボランティアセンター朝霞てって ・あさがお（朝霞笑顔復興委員会） ・Ring（東洋大学オリパラプロジェクト） ・キッズプロジェクトあさか

#### 活動内容 （概要）

4月18日（木）12時00分～15時00分、朝霞キャンパス講義棟1階学生ホールにおいて「ボランティアサークル合同説明会 in 朝霞」を開催しました。

朝霞キャンパスの学生ボランティアサークル4団体が当日ブースを出展し、説明会開始直後からサークルの説明を聞きに新入生の姿が多く見られました。当日、行われていた献血後の学生、団体を決めて会場に来た学生、複数団体の説明を聞いて回っていた学生等さまざまでした。

今回、献血の日程と重なりましたが、参加4団体の学生が互いに協力し、チラシ製作などの広報活動をはじめ、当日までの準備と当日運営を行いました。



## ボランティア支援室イベント

## 4 ボランティアサークル合同説明会2019 in 白山

開催日時	2019年4月25日（木）12:20～14:30
開催場所	東洋大学 白山キャンパス雨水会館1階 ボランティア支援室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生および在學生に東洋大学の学生が取り組んでいるボランティア活動、NPO活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	16名
参加団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ朗読会</li> <li>・ISR-ConnAction</li> <li>・IVUSA 白山クラブ</li> <li>・フェアトレードサークル HEART BAZAAR</li> </ul>

活動内容  
(概要)

ボランティア支援室では、ボランティア活動に関わりたいという白山キャンパスの新入生を主な対象に、ボランティアサークルで活動する選択肢を提供することを目的としてボランティアサークル合同説明会2019を開催しました。本説明会は、新入生へ向けた勧誘の場としてだけではなく、サークル間の交流の場を創出することにもなりました。

## 内 容

この説明会には、読み聞かせ朗読会、ISR-ConnAction、IVUSA 白山クラブ、フェアトレードサークル HEART BAZAAR など、4 団体が参加していました。

私は、ボランティアサークルに入りたいと考えていたのですが、ボランティア系のサークルはたくさんあり、どれに入ろうか迷っていたため一度にさまざまなサークルの話を知ることができる合同説明会に参加することにしました。合同説明会では、参加していたすべてのサークルの方のお話を聞くことができました。それぞれのサークルの活動の様子や説明をしてくださる方の今までの活動の内容や、実際に参加した感想や体験などを詳しく聞くことができ、またサークルの雰囲気などに関する話題も詳しく聞くことができました。このように一度に多くのサークルのメンバーの方々に直接話が聞けるのが合同説明会の良いところだと思います。

この合同説明会がきっかけで、私はボランティアサークル「ISR-ConnAction」で活動することを決めました。これからこのサークルを通じてこれまでに経験したことのないさまざまなことに出会い、実際に活動していけることがとても楽しみです。この説明会に参加したからこそ自分の活動したいサークルに入ることが出来たので、本当に良かったです。

(ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 徳永 万琳 (まりん))



## Toyo 1Day ボランティアプログラム

### プログラム概要

ボランティア支援室開設以来初の試みとなる「Toyo 1Day ボランティアプログラム」は、「ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。」「ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。」「ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。」ことなどを目的に企画されました。

ゴールデンウィーク前後の期間、学内外さまざまな団体の協力のもと、のべ90名以上の学生がボランティア活動に参加しました。

### 各種イベント概要

開催日	企画名	活動場所	参加者数
4/13 (土)	こもればの森 里山支援隊	東洋大学 川越キャンパス	14名
4/13 (土)	さきちゃんちで遊ぼう！～さきちゃんち1Day ボランティア (見学会) ～	さきちゃんち (文京区)	1名
4/21 (日)	スペシャルオリンピックス〈ユニファイドワ ークショップ〉スタディツアー	国立オリンピック記念青少 年総合センター	9名
4/27 (土)	あらかわクリーンアップ活動「荒川で、手軽 に始めるボランティア！」 ※雨天中止	荒川河川敷 (荒川区)	※23名 (参加予定 者数)
4/27 (土)	おたがいさま食堂 in さきちゃんち	さきちゃんち (文京区)	5名
5/3・4 (金・土)	カンボジアフェスティバル (5/3 ブース訪問スタディツアー 3名) (5/11 事後報告会開催 @東洋大学ボラン ティア支援室 3名参加)	代々木公園 イベント広場	のべ24名
5/5 (日)	[東洋大学学生課外活動育成会] デイキャンプで遊ぼう	船橋市立青少年第2キャン プ場	26名
5/9 (木) ～ (複数回)	寺子屋子ども食堂王子	寺子屋子ども食堂 (北区王子)	のべ18名
6/9 (日)	さきちゃんちで遊ぼう！ ※緑の高尾山に行こう！ (雨天中止のため予定変更しての実施)	さきちゃんち (文京区)	3名

## 5 TOYO 1 Day ボランティアプログラム

### ●こもれびの森・里山支援隊

開催日時	2019年4月13日（土）8:30～12:00
開催場所	東洋大学 川越キャンパス こもれびの森
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	14名

#### 活動内容 (概要)

東洋大学川越キャンパス内の広大な森林「こもれびの森」を多様な生物が生きる里山の森にする「東洋大学川越キャンパスこもれびの森・里山支援隊」では、毎月1回程度活動日を設けて、生育障害木や枯損木の伐倒、下刈りなどの里山林保全活動を行っています。

2019年度第1回の活動は、2年ぶりに実施したキノコの菌打ちを4月13日（土）8時30分から12時00分に実施し、14名が参加しました。

シイタケ、ナメコ、ヒラタケの種駒を各400個、それぞれ20本ほどのコナラとヤマザクラのほだ木にドリルで穴を開けて埋めて、林内に静置しました。

1年半ほど経ってからキノコが出てくる可能性がありますが、必ずしもこれらのキノコが出てくるとは限らず、毒キノコや食用に適さないキノコが出てくることもありますので、勝手に取らないようにお願いします。

午後の2019年度総会終了後、14時30分から16時00分に構成員の一部がスズメバチトラップの作成と設置をこもれびの道周辺に行いました。

生物多様性のことを考慮すると、スズメバチを捕獲することは望ましいこととは言えないのですが、通学路としての安全の向上のために、この時期にトラップを設置して、女王バチの数を抑制しようと考えています。

昨年は120匹以上が捕獲されたものの、秋口にはたくさんの働きバチが出現して、確認されていたニホンミツバチの巣が全滅してしまいました。

私たちが生物多様性の豊かな森林に通学路を作っているということを理解しながら、多様な生物との共存への理解を深めたいところです。





## ●スペシャルオリンピックス～ユニファイドワークショップ～スタディツアー

講師	スペシャルオリンピックス日本 幡谷真澄さん
開催日時	2019年4月21日（日）10:30～12:00
開催場所	国立オリンピック記念青少年総合センター
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	9名

### 活動内容 (概要)

2019年4月21日（日）、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、学生9名が参加しました。

SO日本の幡谷さんより、スペシャルオリンピックス（SO）とは、年間を通じてさまざまなオリンピック形式のスポーツのトレーニングと競技会・大会の場を、知的障がいのある人たちに提供している団体である旨の説明を受けました。

また、活動に参加する知的障害のある人を「アスリート」と呼んでおり、SO活動を通じて彼らの社会参加と自立を支援しているなどの団体説明を受け、学生は活動内容の理解を深めました。

説明後、体育館にて、アスリートとパートナー（知的障がいのない人）のチームによる、バスケットボールの試合形式を見学し、実際の活動を肌で感じる事が出来ました。



## ●おたがいさま食堂 in さきちゃんち

講師	さきちゃんち
開催日時	2019年4月27日（土）10:00～13:00
開催場所	さきちゃんち（文京区小石川3-36-14 2F）
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	5名
協力	さきちゃんち

### 活動内容 （概要）

ボランティア支援室では、ゴールデンウィーク期間中に学生の「はじめてのボランティア活動」を応援するために「Toyo 1Day ボランティア活動」を実施しました。

その中の1つとして、文京区小石川にある「さきちゃんち」にご協力をいただきました。

「さきちゃんち」とは、お友達の家に行く感覚で行ける場所、まちの人が共有する「おうち」です。「さきちゃんち」は、子どもたちがまちの人に見守られながら、つくる・食べる・あそぶ・まなぶ・くつろぐ場として様々な活動を実施しています。

当日は、「おたがいさま食堂 in さきちゃんち」と題し、こども達とフルーツサンド、マカロニサラダを一緒に作り、楽しいひと時を過ごしました。

### 学生の感想

- ・最初は授業の一環として参加させていただきました。たった一回きりで、今後やることはないだろうと思い参加しました。しかし、たった3時間子どもたちと遊んだだけで、次の活動にも参加させてもらいたい！と思っている自分にびっくりしました。

最初は不安だった子ども達とのコミュニケーションも子ども達から声をかけてもらえたことで緊張がなくなって、自然体で子どもたちと楽しむことができました。

こども達に接することで気づきましたが、子どもは壁を作らないのです。年を重ねるにつれて、初対面の人に壁を作るようになっていたことに今回初めて気づかされました。

純粹で先入観がなく、この人と遊んでみたい！という気持ちだけで動けるとするのは今の私ではできない気がします。そこが子どものすごいところだなと感心しました。そういうことも含めて、良い経験になったと感じました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。ぜひ今後もよろしくお願いします。

- ・今回、初めてボランティアに参加させていただきましたが、アットホームな雰囲気と元気で明るい子どもたちに囲まれ、とても楽しい時間を過ごすことがで

きました。子どもたちを含め、みんなで協力して楽しみながら作ることで美味しいものが出来るんだなと思いました。大学では教育学を学んでいますが、直接子どもと関わる機会はほとんどないので、貴重な時間を過ごすことができました。また機会がありましたら是非参加させていただきたいです。

- ・私は中学校の頃から、地域の子ども会活動を活発化するお手伝いをする、ジュニアリーダーズクラブに所属しています。子ども会活動を通じて、地域の人と人をつなぐ活動をしてきました。

今回の子ども食堂も、ジュニアリーダーの活動に似ていると感じました。地域がつながる事で、より過ごしやすい社会になっていくと思います。その取り組みに今回関わらせて頂けて、私自身も地域の一員として、加われた様に感じ、この街が好きになりました。これからも、ジュニアリーダーの経験を生かして、また今回の子ども食堂での経験を生かして、人と人をつなぐ活動を続けていけたらなと思います。



## ●カンボジアフェスティバル2019

開催日時	2019年5月3日（金・祝）～4日（土）9:00～20:30
開催場所	代々木公園イベント広場
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	18名
協力者	杉山 早紀さん（カンボジアフェスティバル実行委員会）

### 活動内容 （概要）

「Toyo 1day ボランティアプログラム」として、ゴールデンウィーク期間中の5月3日・4日両日に、代々木公園において開催された「カンボジアフェスティバル2019」の運営ボランティア活動のコーディネートを行いました。

「カンボジアフェスティバル2019」は、日本とカンボジアの友好による平和の保全や経済発展、多文化共生を推進していくことを目的に開催されています。このフェスティバルにボランティアとして関わることを通じて、カンボジアの歴史的経緯を学ぶことや、相互の文化の違いを認識し尊重すること、さまざまな立場の人とより良い関係を築ける機会とすることを目指しました。

### 内 容

ボランティアは以下の活動を、時間帯で区切り交代で担当しました。

- (1) エコステーションでのゴミ分別管理・会場内清掃
- (2) 駐車場管理・出店者車搬出入と出演者車誘導
- (3) 本部ブース受付
- (4) 会場案内・パンフレット配布
- (5) お手洗い管理・清掃
- (6) ステージ運営補助
- (7) 開会式受付・演出補助
- (8) VIP ビュッフェ準備、給仕、片付け
- (9) 実行委員小規模ブース販売補助
- (10) カンボジア大使館ブース 楽器体験コーナー補助
- (11) 「私の好きなカンボジア」コーナー補助
- (12) 「KlapYaHandz」特設ブース補助
- (13) 写真・動画撮影
- (14) その他運営に関わる補助

### 参加者の所感

- ・初めてのボランティアだったけれど支援室スタッフの方のサポートがあって、安心して活動に向かうことができた。東洋大生同士、外部の人、様々な出会いがあり人見知りだった私が自然と楽しんでいたのは自分の中で大きな発見だっ

た。野外の活動は大変さも多いけれど楽しさ満点だったのでまたぜひ参加したい。

- ・ボランティア活動というただただ人助けをするという業務的な印象が強かったのですが、それよりもボランティアスタッフや来場客と交流したり、フェスティバル自体を楽しんだり、楽しくイベントを盛り上げるサポート役として活動できたのが良かったです。



### ●カンボジアフェスティバル2019 ブース訪問スタディツアー

開催日時	2019年5月3日（金・祝）10:00～15:30
開催場所	代々木公園イベント広場
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	3名

#### 活動内容 （概要）

ゴールデンウィーク期間中の5月3日・4日両日に代々木公園において開催された「カンボジアフェスティバル2019」に、東洋大学からボランティアとして学生が関わりましたが、ボランティア支援室でこの度募集をしたイベントサポートスタッフ向けに、国際交流・協力に関するボランティア活動やNGO／NPOへの理解を深めることを目的としたスタディツアーを実施しました。

#### 内 容

カンボジアには、アンコールワット以外にも素晴らしい芸術や文化・料理があり、美しい自然にも恵まれていますが、過去の悲惨な歴史に焦点を当てられることが多く、輝きを取り戻しつつあるこの国の多様な表情や、日本で活動する在日カンボジア人の姿が伝えられる機会はまだ僅かしかありません。

そこで【日本とカンボジアをつなぐ】ことを主旨とする「カンボジアフェスティバル」が開催されました。

私たちはボランティア支援室のイベントサポートスタッフとして、フェスティバル会場を巡りながらさまざまな NGO/NPO などのお話を伺いました。フェアトレード、人道支援、教育支援など様々な方向からボランティアに関わる団体のお話を聞くことができました。

当日イベント会場となった代々木公園では別のイベントも開かれており、カンボジアの事にあまり興味がなかった人たちも、たまたま足を運んだことがきっかけとなってカンボジアの事をよく知ることができる素晴らしい機会になりました。

会場は大盛況で、イベントの雰囲気を感じることができました。どのようにブースを並べれば来場者がスムーズに移動できるか、支援という言葉から派生した視点の多様性など、私たちにとって多くの学びがありました。

当日会場のボランティアスタッフとして参加していた方々は笑顔を絶やさずに来場者の方々とお話ししたり、案内をしていたりして、とても明るく楽しさが伝わってきました。炎天下の中ありがとうございました。

(ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 杉本 昂熙 (たかき))



## ●「カンボジアフェスティバル2019」事後学習会

講師	杉山 早紀さん（カンボジアフェスティバル2019実行委員会）
開催日時	2019年5月11日（土）10:00～12:00
開催場所	東洋大学ボランティア支援室
目的	1. 「カンボジアフェスティバル2019」での活動をふりかえりながら、国際交流や異文化理解についての意識を深めること。 2. 学生時代にボランティア活動に深く関わったゲストスピーカーをロールモデルとして、自身の生き方を対称化すること。
参加者数	3名

### 活動内容 (概要)

事後学習会では、ボランティアとしてフェスティバルの運営に関わった学生のみならず、フェスティバルの様子をレポートするために参加したボランティア支援室イベントサポートスタッフも参加し、双方の学びを分かち合いました。

ゲストスピーカーに、同実行委員会の杉山早紀さんを迎え、自らも学生時代に大学ボランティアセンターを活用しながら自らの活動の場を広げ、社会人となった今も活動を楽しむに至ったプロセスについてお話いただきました。

### 内 容

自らが学習し発見した点を、他の参加者と分かち合う事を目的とした事後学習会が先日行われました。

今回はカンボジアフェスティバル2019にて、ボランティアに参加した学生たちを対象とし、ゲストにフェスティバルの実行委員である、杉山早紀さんをお招きしました。

カンボジアフェスティバルではボランティアに興味を持った学生が多く参加し、人とのコミュニケーションやチームワークの大切さを学んだといった振り返りを多くいただきました。学生以外の参加者と一緒

になり、自分に出来ることを率先して探すことが多かった今回のボランティア活動は、学生たちにとって充実した経験となりました。

杉山さんからは、カンボジアへ興味を持ったきっかけから今に至るまでの経緯をお話いただきました。大学生になってから積極的にボランティア活動に参加し、気がつけば好きな事がボランティア活動に繋がっていたそうです。困難に直面しても諦めずに挑戦し続け、誰かの為に行動してきた彼女の行動力からは、これからの大学生生活で参考にできる点が多いと思います。

今回のボランティア活動への参加が、学生たちにとって、今後の大学生活をより一層学び深く、そして、豊かなものへと構築する架け橋になることを期待しています。

（ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 吉田 優紀）



## ●寺子屋子ども食堂・王子

開催日時	2019年5月9日(木)、20日(月)、27日(月) 6月8日(土)、10日(月)、13日(木) いずれも17:00～21:00
開催場所	寺子屋子ども食堂・王子
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一歩につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	のべ18名
協力	NPO 法人寺子屋子ども食堂・王子、社会福祉法人北区社会福祉協議会 僕らの夏休み Project 東洋大学支部

活動内容  
(概要)

日本全国で3000か所ほどの「子ども食堂」が開かれ、多くのボランティアの手によって運営されています。子どもの貧困対策や、孤食の防止という観点からはじまった子ども食堂ですが、多世代交流の拠点としても考えられるようになってきました。また、「食堂」としての機能だけでなく、子どもたちの学習支援活動や遊びの活動などが行われる子ども食堂も見られるなど、活動形態は多様化しています。

「寺子屋子ども食堂・王子」は、2018年に活動がはじまった新しい子ども食堂です。「寺子屋」の名の通り、学習支援活動をメインに据え、その合間に食事の時間を設ける形で運営されています。

北区社会福祉協議会の委託事業としてはじまった活動ですが、現在はNPO 法人寺子屋子ども食堂・王子としての自主活動もあわせて、基本的に週2回実施。毎回の活動受け入れ可能上限人数は5名ずつであったため、1day ボランティア参加希望者が日程を分散して参加する形態を採りました。

また、初めてボランティア活動に参加する学生のフォローアップの役割を中心に、岩手県宮古市などで子どもたちと遊ぶ活動を行ってきた、僕らの夏休み Project 東洋大学支部の学生が担ってくれました。

参加した学生は、子ども食堂がどのようなところなのかを知りたいということや、子どもたちと関わることを楽しみに参加したという学生が複数見られました。時間を経るごとに子どもたちと関係が築けていったことに充実感を感じた学生が

多くいましたが、活動後のふりかえりにおいては「1人の子どもにかかりきりになってしまって、もっと多くの子どもたちと関わればよかった」と反省を述べる学生もいました。しかし、いろいろな子どもたちがいる中で、ボランティアも多様な人たちが関わる場、1人の子どもにじっくり向き合うこともまた、1つの関わり方でもあったのでは？というフィードバックをコーディネーターより行いながら、子どもとのかかわり方やボランティアとしてのあり様などを考える機会となりました。



## ●「さきちゃんちで遊ぼう」 ※緑の高尾山に行こう！（雨天中止のため予定変更）

開催日時	2019年6月9日（日）13:00～
開催場所	さきちゃんち（文京区小石川3-36-14 2F）
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る。</li> <li>・ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一步につなげる。</li> <li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li> </ul>
参加者数	3名
協力	さきちゃんち

活動内容  
(概要)

2019年6月9日（日）、「さきちゃんちで遊ぼう！」に本学の学生3名が参加しました。

当初の予定は、「緑の高尾山に行こう！」ミシュラン三ツ星に選ばれた高尾山。「親子で登ってみませんか？ さきちゃんちスタッフ＆ボランティアがガイドします！」として、学生達はこども達と高尾山に登ることを楽しみにしていました。学生のボランティア申し込みが非常に多く、抽選し約5名の学生が参加予定でした。しかし、残念ながら天候状況を鑑み、中止となりました。

イベントの雨天中止により、「さきちゃんちで遊ぼう！」を開催しました。

## 参加学生の感想

- ・ さきちゃんちボランティアに参加した感想は、とても子供たちがのびのびと過ごせる場所だと思いました。雰囲気は、児童館と似ていますが公共施設とは違いとても自由度が高くなっていて子供たちのやりたいことがとてもやりやすいところだと思いました。
- ・ さきちゃんちでは、子供達に対して、「場」を提供することが最大の価値提供であると感じました。最初は、初対面の大学生が3人もいつもの場所にいるのですから、緊張してなかなか距離を詰めてきませんでした。ただ、初対面の子供達に対してこちらから無理矢理距離を詰めても負荷がかかってしまうだけだと思い、笑顔で話かける程度の距離の縮め方にしました。自分の世界に没頭している子もいれば友達同士で遊んでいる子もいました。そういった自分の好きなように過ごせる場所を作り出すことがボランティアに求められている役割なのではないかと思います。だんだんと打ち解けてくると、遊びの中に一緒に入って行きました。風船バレーのようなこともやりました。最後まで、イベントごとのようなことはやりませんでした。楽しい日の1つになれば良いなと思いました。さきちゃんちは放課後の第3の居場所としての役割があるとお話を聞かせていただきました。自分が小学生の時を思い出してみると、周囲の大人の目が行き届いた近所の公園が自分の第3の居場所であったと思います。そういった第3の居場所といった場所では、自分の役割は周囲の大人に該当すると思いました。子供たちが主体的にイキイキとできる環境づくりをすることが第3の居場所づくりに求められていると感じました。
- ・ 今回、高尾山にいけなかったのは少し残念ですが、さきちゃんちに行く機会を

いただきありがとうございました。さきちゃんちという場所は子どもと大人、そして子供同士がふれあえる素晴らしい場所であることを実感しました。

しかし、イベントの中止や雨だったこともあり今回はあまり子供が来ていませんでした。また、僕たちが行ったのが初めてだったこともあり、最初はあまり話したりしてくれませんでした。最後には一緒に遊んだりできて楽しかったです。

今回をきっかけに今後もボランティアに積極的に取り組みたいと思います。



## ボランティアカフェ（ボラカフェ）企画概要

### 企画概要

開催日時	第1回： 2019年4月22日（月）12:20～12:50 第2回： 2019年4月23日（火）12:20～12:50 第3回： 2019年5月20日（月）12:20～12:50 第4回： 2019年5月30日（木）12:20～12:50 第5回： 2019年6月11日（火）12:20～12:50 第6回： 2019年6月25日（火）12:20～12:50 第7回： 2019年7月1日（月）12:20～12:50 第8回： 2019年10月31日（木）12:20～12:50 第9回： 2019年11月28日（木）12:20～12:50 第10回： 2019年12月12日（木）12:20～13:00
開催場所	東洋大学白山キャンパス 浦水会館1階 ボランティア支援室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> <p>※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける。</p>
内容	ボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていても興味がある学生などが集まる交流の場として、ボランティアカフェを実施しました。
参加者等	参加者数
第1回：辻 珠美さん（NPO 法人 Learning for All）	4名
第2回：長瀬 健太郎さん（NPO 法人 good!）	11名
第3回：菅 将大さん（東洋大学学生、NPO 法人 YouthCreate 代表理事）	6名
第4回：阿久津 真理恵さん（東洋大学学生、学生団体 SKOW2 代目代表）	6名
第5回：勝俣 早紀さん（東洋大学学生、学生団体大槌プロジェクト）	5名
第6回：井口 育紀さん（NPO 法人 NICE 日本国際ワークキャンプセンター 事務局長、東洋大学 OB）	8名
第7回：島田 ゆり子さん（明治大学学生、生物多様性わかものネットワーク副代表）	5名
第8回：宮崎 賢哉さん（災害救援ボランティア推進委員会主任、防災教育コンサルタント）	7名
第9回：NPO 法人 good!2019年夏のワークキャンププログラム参加者の皆さん（田中 廉太郎さん（東洋大学学生、NPO 法人 good!）ほか2名）	9名
第10回：東洋大学 学生団体 Team Value Creation の皆さん	10名

## ⑥ 東洋大学ボランティアカフェ（ボラカフェ）

### ●子どもに向き合う一生ものの経験を

ゲスト	辻 珠美さん（NPO 法人 Learning for All コミュニティ事業推進部）
開催日時	2019年4月22日（月）12:20～12:50
開催場所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul>
参加者数	4名

#### 活動内容 （概要）

日本の子どもの貧困率は13.9%。約7人に1人の子どもが「相対的貧困」状態でさまざまな困難を抱えています。貧困の問題は、世代を超えて連鎖しやすいという性質があります。単に経済的に貧困というだけでなく、それを起点として引き起こされる「つながり」「育まれる環境」「学びの環境」の喪失が原因であると考えられます。貧困は、その人が「努力しなかったから」という自己責任の問題などではなく、社会的構造を起因とする問題であるということが言えます。

NPO 法人 Learning for All では、これまで「質の高い学習機会」を提供する学習支援拠点と、「家庭でも学校でもない第三の居場所」を提供する居場所支援拠点を展開することで、困難を抱えた子どもたちの「人生の転機」となるような支援を行ってきました。たった一人の自分の可能性を信じ、向き合ってくれる大人との出会いで、子どもの可能性が活かされ子どもたちが大きな成長を遂げる姿を見続けてきています。

「つながり」「居場所の提供」「学習機会の提供」貧困を生み出すこれら3つの要因が喪失しないよう、切れ目のない支援を続ける Learning for All ですが、学生として活動に関わる方法は「ボランティア」と「インターン」の2通りの方法があります。ボランティアは、「居場所の提供」「学習機会の提供」に関わる場面での活躍が中心となります。インターンは、より職員に近い立場で、団体のビジョンとミッションに照らし合わせる形で、経営に参画するための手段となっています。

学生ボランティアやインターンとして、そして大学を卒業後社会人として関われる場も用意されているとのこと。大きな社会問題に向き合うこととなりますが、同時にその解決のプロセスに関わることのできる機会もまた貴重なものに違いありません。



## ● ワークキャンプで過ごす夏

ゲスト	長瀬 健太郎さん（NPO 法人 good!）
開催日時	2019年4月23日（火）12:20～12:50
開催場所	東洋大学学生 浦水会館1階 ボランティア支援室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> <p>※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける。</p>
参加者数	11名

### 活動内容 （概要）

国内外でボランティアワークキャンプを続ける good! のスタッフである長瀬さんのお話を聞いて感じたのは、good! がどんな団体であって、どんな活動をしているのかというよりも、自分を受け止め、見つめてくれる、そんな環境が good! にあることを教わったような気がします。

現在は SNS 上で「友達」を手軽に作ることができる反面、大学では自分の机と椅子がなく、毎日同じクラスの友達と会うということもありません。たくさんの人とつながることのできる機会も多くありますが、どうやって自分の輪を広げていったらいいの、じゃあこのままの状態でもいいかなと思っているような人にとって、good! は一歩を踏み出すきっかけとなるよう応援していると長瀬さんは話してくれました。

また、ボラカフェの中で good! が製作した動画を2本見ました。ボランティアワークキャンプを通じて、参加をした人たちが現地に住む人々と一緒に作業をしたり、コミュニケーションをとったり、遊んだりしている様子が素直に描写されていました。特に、別れの場面では心が揺さぶられ、ボランティアワークキャンプに魅了されてしまいました。ボランティアワークキャンプは仲間と共に自分と向き合う日々でもあるけれど、何か動き出す始まりになるかもしれないとワクワクします。

ボラカフェ終了後も、時間が許す限りなぜこのボラカフェに来ようと思ったのか聞いてくださり、質問にも答えてくださりました。白山キャンパスから近い板橋区に事務所があり、そこには泊まることも出来るそうです。国内は静岡、新潟、長野、広島において、国外はスリランカ、タイ、韓国などで活動されています。「どのような活動をしているのか」、「good! の動画見てみたい」、「もっと詳しく知りたい」と思った方は、是非ホームページを訪れてみてください。http://www.good.or.jp/

(ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 下井田 絢子)



### ●主権者教育ってなあに？

ゲ ス ト	菅 将大さん (東洋大学学生、NPO 法人 YouthCreate 代表理事)
開 催 日 時	2019年5月20日 (月) 12:20 ~ 12:50
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> <p>※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける。</p>
参 加 者 数	6名

#### 活動内容 (概要)

選挙や政治という言葉を聞くと、難しそうで、なにか自分自身との距離が遠い気がすると感じたりしますか？そのようなイメージや考えを変えたい、そして若者と政治をつなぎたいと活動されている特定非営利活動法人 (NPO 法人) YouthCreate があります。今回は、代表理事として活躍されている菅さんがボラカフェに来てくださいました。

主に全国の小学校、中学校、高校において、出前授業を通じ主権者教育を行っているそうです。例えば、模擬選挙を行ってみたり、さまざまな視点から地域にある公園について考えてみたりする活動から、最後には自分の関心と政治をつないでいくようです。また、菅さんが出前授業を行う際に心掛けていることを教え

てくれました。それは、授業の内容をどのように伝えるかということでした。授業に対してより興味を持ってもらうため、パワーポイントのスライドの文字数は少なく、イラストや絵を多く使用するように心掛けているそうです。現在は、文京区の小学校で使用される主権者教育の副教材を作成されています。

今後は、出前授業をしてみたいと思っている方が、実際に授業を行える機会をつくっていきたいとお話していました。菅さんも含め、今年で大学生活を終えるメンバーが複数人いるようで、更に多くの方に YouthCreate の活動に関わってもらい、次の教育の担い手へバトンをつないでいきたい！そのため、出前授業に関わってみたいと思っている方を募集しているみたいです！！

選挙の前までに、こういう社会になってほしいと思っているから、この人に投票しようかなというように大まかな雰囲気掴めるよう、みなさんと一緒に活動を続けていきたいという菅さんが活躍する YouthCreate が気になる方は、是非ホームページを訪れてみてください。  
<http://youth-create.jp/> ※

※2020年4月より、NPO 法人 DAKKO としての活動に移行

(ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 下井田 絢子)



## ●人生を180度変える出会い！

ゲ ス ト	阿久津 真理恵さん（東洋大学学生、学生団体 SKOW2代目代表）
開 催 日 時	2019年 5月30日（木） 12:20～12:50
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> ※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける。
参 加 者 数	6名

### 活動内容 (概要)

学生団体SKOW(スカウ)の掲げるビジョンは「未来図を描ける機会を提供する」ことです。

SKOWは、1年間で2000人以上の人と出会い、さまざまな価値観を得ることができる異文化交流イベントを催しています。学校、年齢（日本人は主に大学生や高校生がイベント参加の対象）、国籍、性別問わず、さまざまなバックグラウンドを持つ人と出会い話すからこそより視野を広げることができ、将来のなりたい自分の像や未来図を描くことができるきっかけになるとの考えのもと、楽しく活動を行っています。

団体名の「SKOW」は、「SKY」と「COW」を組み合わせた造語です。「SKY」は「どんな色にも、どんな価値観にも染まること」ができ、どんなことも受け入れるという意味を込めています。「COW」は一般的には「乳牛」または「雌牛」と訳されますが、牛には行動力や熱情の高まりや愛情の豊かさを表していると言われていいます。

SKOWはイベントの形態もさまざまです。年中行事に絡んだイベントや、東京観光を行うもの、料理をつくっての文化交流、スポーツを通じた異文化交流などを実施しています。また、こうしたイベントを日本語学校と提携して実施してもいます。

阿久津さんは、SKOWの代表として関わる傍ら、モデルプロダクションに所属しミュージカルの制作に関わったり、フィリピンに関わるNGOを通じてJFC（Japanese-Filipino Children＝日本人とフィリピン人の両親を持つ子どもたち）が来日してミュージカルを上演する際のサポートの活動をしたりと活躍しています。大学に入学するまでは水泳しかしてこなかったという阿久津さんでしたが、SKOWに入ってみたら、同い年で起業経験のある人やバックパッカーなどといった、さまざまな背景をもつ人とのたくさんの出会いがあり、それが自分を変えたといいます。こうした出会いの数だけ、未来図を描く上で手元に置けるクレヨン色の数も増えていくのだらうと思います。「未来図を描ける機会を提供する」

この意味の大きさは、阿久津さん自身が身をもって経験してきたことでもあった、そんなお話をボラカフェでは伺うことができました。



### ●あなたを、“おかえり”で待ってます～大槌プロジェクト～

ゲ ス ト	勝俣 早紀さん（東洋大学学生、大槌プロジェクト）
開 催 日 時	2019年6月11日（火）12:20～12:50
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> ※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける。
参 加 者 数	5名

#### 活動内容 (概要)

東日本大震災から約8年経った今、復興って結構進んでいるのではないかと、私たちに出来ることはもうないのではないかと、そう思いませんか？ 今回のボラカフェは、震災で大きな被害を受けた人口12000人の小さな町、岩手県大槌町で活動している「大槌プロジェクト」の勝俣早紀さんに来ていただきました。

大槌プロジェクトの皆さんは、「大槌に生きる想いを紡ぎ、愛と笑顔の輪をつくる」という想いで、スタディーツアーや大槌町の取材・記事発信、交流イベントなどの活動をしているそうです。

勝俣さんは大槌町での人と人との繋がりや、いつでもおかえりと包み込んでくれるような地域の方々の温かさが嬉しくて、これからもこの関係を大事にしていきたいとお話ししてくださいました。見せてくださった活動動画からは、魅力溢れる大槌の町と参加している学生も地域の方々の笑顔が滲み出ていて、まさに愛と笑顔の輪があるなと感じました。

今夏は心のふるさとツアーを開催したり、大槌町と学生の架け橋となったりす

るような活動を今後も続けていくそうで、一緒に活動する仲間を募集しているそうです！気になる方は「大槌プロジェクト」で検索、Twitterでの情報発信をしているので是非チェックしてみてください。

※大槌プロジェクト：

URL：<http://themoment.bambina.jp/higasihionnhukkousiensyuzaitua/>

※大槌プロジェクト：公式 Twitter：[@Otsuchi\\_PJ](https://twitter.com/Otsuchi_PJ)

(ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 齊藤 茜)



●今からでも間に合う！今年の夏、国際ボランティアのススメ！

ゲ ス ト	井口 育紀さん(NPO 法人 NICE 日本国際ワークキャンプセンター 事務局長)
開 催 日 時	2019年 6 月25日 (火) 12:20 ~ 12:50
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館 1 階 ボランティア支援室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一歩を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> <p>※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける</p>
参 加 者 数	8 名

活動内容  
(概要)

東洋大学の卒業生であり、現在特定非営利活動法人（NPO 法人）NICE に勤めていらっしゃる井口育紀さんがボランティア支援室にお越しくださいました。

今回、ボランティアに興味を持つ7人の学生がボランティア支援室に足を運びました。

NICE は「カラフルでヘルシーな世の中に」をミッションとして、毎年1000人以上をボランティア活動に送り出しています。

海外ボランティアに加え、国内にも充実した国際ボランティアプログラムを持っており、ボラカフェに参加した学生は皆興味津々に井口さんの話を聞いていました。

井口さんによる NICE の活動紹介は、昼休みという短い時間でしたが、学生が国際ボランティアへの関心をより深めることが出来る良いきっかけとなりました。

ボラカフェは、参加した大学生が必ず新しい知識や、価値観を持ち帰ることのできるイベントです。今回も参加者の見識が1つ広まったと思います。

参加者の感想

・もともとボランティアに興味があり、海外にも行きたいなと思っていたため、海外ボランティアについて考えていた矢先に、ボランティアカフェのチラシを見て参加させていただきました。

NICE さんの情報についてはあまり調べてはいなかったのですが、やはり料金が安いのは驚きました。

プログラムも豊富で悩めますね……国内のボランティアには個人的に惹かれました。

(ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ 杉本 昂熙 (たかき))



●自然のミライ、考えませんか？ ボランティアで社会課題を解決！

ゲ ス ト	島田 ゆり子さん（明治大学学生、生物多様性わかものネットワーク副代表）
開 催 日 時	2019年7月1日（月）12:20～12:50
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアサークルの活動紹介の場の提供。</li> <li>・学生のボランティア活動や社会貢献活動への一步を踏み出す後押しをする。</li> <li>・参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする。</li> <li>・ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする。</li> </ul> <p>※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける。</p>
参 加 者 数	5名

活動内容  
(概要)

今回のボラカフェは、ボランティア支援室イベントサポートスタッフが企画・ゲストとの折衝・当日の進行などを担いました。

内 容

生物多様性わかものネットワークは、生物多様性やその問題に関して活動や研究を行う学生と若手社会人のネットワーク団体です。このうち学生は、北は北海道から南は九州（福岡）まで全国にメンバーがいます。

団体発足のきっかけとなったのは、2010年10月に愛知県で開催された第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）です。このとき、「愛知ターゲット」と呼ばれる、2050年までに達成すべき生物多様性保全の目標が策定されましたが、その国際会議に集った「わかもの」が、会議後も学び、アクションを継続していくための枠組みとして発足したとのことでした。

WWF が発表した「生きている地球レポート2018」によると、1970年代に地球上に1万6000存在していた生物の個体群が、2014年までの間に平均60%も減少していたそうです。このままでは生物多様性が損なわれ、私たち自身の暮らしも危ぶまれてしまう。そのためにこの団体は、「わかもの」にとって生物多様性を身近に感じられるものにし、「わかもの」としての政策提言も行っています。

筆者は島田さんがすっかり理系の学生さんだと早合点していたのですが、彼女は法学部に在籍していて、生物学を専門的に学んでいるわけではありません。他のメンバーも、生物学以外を専攻する学生は多数いるとのこと、一緒に活動していく上で生物学の予備知識が必要なわけではなく、知識面は活動の一環として参加している国際会議や生物多様性わかもの会議などの場を通じて得ることができるそうです。当日島田さんから紹介いただきましたが、他の団体とコラボレーションし、「食と生物多様性」について、実際に調理をしながら楽しく学べるイベントも企画されているようで、生物多様性を身近に感じられる機会をネットワークはつくっています。ぜひ皆さんにも足を運んでみてください！

最後に、島田さんが活動を通じて感じているやりがいについて触れたいと思います。

- (1) 成果が目に見えるわけではないが、「自分たちの未来や社会のために、何かやってみよう」という思いをかなえられる。
- (2) 世界の生物多様性の損失を止めることは難しいが、目の前にいる人や物事は、変えることができる。
- (3) 今まで出会ったことのないような、近くにいるとわくわくできる魅力的な人に出会える。

（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲）





●【緊急開催】台風19号、災害ボランティア活動に行く前に！  
 —防災のプロが語る、安全に活動するためのポイント

ゲ ス ト	宮崎 賢哉さん（災害救援ボランティア推進委員会主任、防災教育コンサルタント）
開 催 日 時	2019年10月31日（木）12:20～12:50
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目 的	1. 災害ボランティア活動に関心はあるものの、どのような準備をすればよいか分からないという方に向けた情報提供を行うこと。 2. 台風19号災害ボランティア活動への参加を希望する学生に向けた事前研修の機会とすること。
参 加 者 数	7名

活動内容  
 (概要)

2019年10月12日から13日にかけて、主に関東地方や甲信越・東北地方に大きな被害をもたらした、令和元年台風19号災害。（東日本台風）

9月に発災したばかりの台風15号に続き、関東圏が被災したことから、比較的近隣地域におけるボランティア活動ニーズが学生から挙がってくることが想定されたことに伴い、今回ボランティアカフェの形式をとり、活動前に必要な知識や情報を共有する場を設けました。

災害ボランティア活動に参加するために把握すべきポイントは、第1にどんな活動をするかということ、第2にいつ活動するかということ、第3に活動に必要な情報は何かということです。ひとくちに災害ボランティア活動といっても、活動内容は多岐にわたり、原則的に個々のスキルや「できること」と被災された方のニーズのマッチングによって活動は成立します。被災地域におけるニーズは刻一刻と変化していくため、「いつ活動するか」というタイミングを判断することも重要です。発災直後の泥かきなどの力仕事は苦手でも、仮設住宅などでの話し相手であれば活動できるという人にとっては、少し時期をおいてからが「出番」となります。

そして、発生した災害自体に関する知識や、被災地域の状況（現地への交通状況含む）、必要な装備などの情報を集め、蓄積しておくことも重要です。今回のボラカフェでは、クライシスレスポンスサイト（防災科学技術研究所、<http://crs.bosai.go.jp/>）を見ながら、台風19号災害に伴って災害ボランティアセンターが開設されている地域はどこかということを確認しました。

また、災害ボランティア活動における安全衛生についての話題にも及びました。活動中、もっとも難しいことは「活動をやめる勇気」であると宮崎さんはいいます。ボランティア活動者同士、互いに気を配りながら無理なく活動を続けられる環境をつくること。そしてボランティア活動者自身、①トイレに行くこと、②食事・水分を摂ること、③休憩・睡眠をとること、という安全衛生の3原則を守ることが、活動する上での重要なポイントになるということについてお話いただきました。

#### 参加者の感想

- ・ ボランティア活動をする上で注意する点を整理した上で教えていただいたので、よく理解できました。問題がおこった時の対処方法も分かったので、自分の中でボランティア活動に参加するためのハードルが下がりました。この先、自分がボランティアに参加するとき、今回教わったことを活かすことができればと思います。
- ・ 災害現場での大事なことをお聞きできてよかったです。30分というのがあったいなくらいでした！また機会があれば、ぜひお話し伺いたいです。本日はありがとうございました。
- ・ 災害ボランティアセンターのことや、現地の方とどう接するべきなのかを詳しく知ることができました。あまり考えすぎず、現地の方と普段通りお話しすることを心がけて、参加していきたいと思いました。とても貴重なお話が聞けてよかったです。自分にできることを考え、行動しようと思いました。
- ・ 今まで、サークルで与えられた環境で活動していて、自分で情報収集したりなどはしていなかったので、いろいろサイト等も教えてもらえて、自分でも調べてみようと思います。
- ・ 水害ボランティアは、家財の清掃という力仕事のイメージしかなかったけれど、それ以外にもあるのだなと感じた。自分でもできそうなものがあったら、やりたいと思った。



## ●一歩踏み出した、その先に広がるセカイ

ーワークキャンプに行ってきました！ー

ゲ ス ト	NPO 法人 good!2019年夏のワークキャンププログラム参加者の皆さん (田中 廉太郎さん (東洋大学学生、NPO 法人 good!) ほか 2 名)
開 催 日 時	2019年11月28日 (木) 12:20 ~ 13:00
開 催 場 所	東洋大学 甫水会館 1 階 ボランティア支援室
目 的	1. ワークキャンプ(宿泊型ボランティアプログラム)に参加した学生の「生の声」を聴くことのできる機会として。 2. ワークキャンプに参加した学生が、報告を通じて自身の活動をふりかえる契機とすること。
参 加 者 数	9 名
協 力	NPO 法人 good!

### 活動内容 (概要)

国内外でワークキャンププログラムを展開する NPO 法人 good! を迎えたボランティアカフェは、4 月に一度開催していますが、この夏実施された good! のワークキャンププログラムに参加した本学学生の田中廉太郎さんより、ワークキャンプ参加学生からの報告の場をもちたいとの申し出があり、今回ボランティアカフェとして設定することになりました。

#### 【以下、田中廉太郎さんからの報告】

4 月のボランティアカフェでは、ワークキャンプとは何か、good! とはどのような団体なのかについての紹介を中心とした内容でしたが、今回は夏休み期間中に good! のワークキャンプに参加した学生 3 人が実際に参加してみて、どのような事をして何を感じたか、学生だからこそ話せることに重きを置いた回となりました。

現地でのワーク内容やさまざまな国での生活、現地の人とのコミュニケーションについてはもちろん、ワークキャンプに参加する前後の自身の生活についての話もありました。参加する前の自身の生活や、参加した理由などは人によっていろいろですが、学生生活や自分自身に対する日々の違和感や物足りなさといったことが 3 人の学生の話の中にあり、それは現代の学生が共通して抱えているものではないのかなと気付かされました。

SNS 上での関係性やつながりがとても強くなっている現代では、ネット上での関係づくりはできても、そこから離れた日々の生活での関係づくりはとても難しいものとなっていて、そういったところから違和感や生きづらさを抱えている人もいます。そんな人の一歩踏み出すきっかけとなるように応援してくれる場が good! なのではないかと思いました。

また、ボラカフェ後も時間が許す限り何故今回ボラカフェに来ようと思ったのかなど、来てくれた学生一人一人と話せる時間が作れました。今回のボラカフェを通して good! のワークキャンプに参加してくれる学生がいたらとても嬉しいですが、それよりも今回色々な話を聞いて何かやってみたい、1歩踏み出して挑戦

してみようと思ったなど何かしらのきっかけとなっていればとても嬉しいです。

good! の事務所は白山キャンパスからも近い板橋区にあり、そこではフリースペースがあり、ご飯を食べることができたり宿泊したりすることもできます。

国内外さまざまな国と地域でワークキャンプを行っています。どのような活動をしているのか、もっと知りたい! と思った方は、是非ホームページを訪れてみてください。 <https://good.or.jp>



### ●東洋大学とSDGs ～身近なことを、“自分ごと” に～

(含「東洋大学ボランティア WEEK2019」展示企画「東洋大学とSDGs」)

ゲ ス ト	東洋大学 学生団体 Team Value Creation の皆さん
開 催 日 時	・ボランティアカフェ： 2019年12月12日（木）12:20～13:00 ・展示企画： 2019年12月5日（木）～12月13日（金）
開 催 場 所	東洋大学 浦水会館1階 ボランティア支援室
目 的	1. SDGs への認知を深める契機とすること。 2. 既にSDGsに関わる活動をしている学生間のつながりを築き、今後大学でSDGsを推進していくための足掛かりとすること。
参 加 者 数 (ボランティアカフェ)	10名

#### 活動内容 (概要)

今回のボランティアカフェには、毎年時事問題や社会情勢に関するテーマを設定し、そのテーマに基づき活動を行う学生団体 Team Value Creation の皆さんをゲストに迎えました。

2019年度、Team Value Creation は、SDGs をテーマに活動を展開してきました。SDGs(持続可能な開発目標)は、企業やメディアなどでも取り上げられる機会が多くなってきましたが、Team Value Creation が他大学に協力を得て約3800人の大学生に対し行ったアンケートによると、「あなたの大学でSDGsは推進されていると思うか」という設問に対し、そもそもSDGsを「知らない」と回答した学生は47%と半数近くを占め、まだまだ認知が進んでいないとの認識をもったとのことでした。

そこで、まずは皆さんにSDGsを知ってもらおうと、Team Value Creationは白山祭で展示企画を出展しました。展示では、「大学の中にもSDGsに繋がることが隠れているのでは?」ということで、「身近なことを自分ごとに」していけるような具体例が紹介されていました。展示の中で、今後推進してほしい企画にシールを貼ってもらったり、感想を書いてもらったりするなどをして来場者からの声も集めていました。

「東洋大学ボランティアWEEK2019」では、SDGsに関連した取り組みも随所に見られていたことから、白山祭展示企画として行われていた展示を再度、ボランティア支援室において行うことにしました。今回のボランティアカフェも、展示内容を紹介しながら進行していきました。

参加者からは「学部の授業では学ぶことができないので、個人的に(SDGsを)学んでいきたい」「自身のキャリア形成に役立てたい」といった感想が寄せられました。

今後 Team Value Creation は、展示企画来場者からの声を実現していくために、大学内でSDGsを学生に認知してもらうためにどうしたらよいかを考え、引き続きSDGsを知ってもらう活動を進めていくそうです。

また、今回のボランティアカフェの参加者の中には、既にSDGsに関連した取り組みを行っている学生も複数いたことから、東洋大学でSDGsを推進していくためのつながりを築ききっかけとなり、早速1月にSDGs学生プラットフォームとしての集まりをもつことになるなどの成果もありました。



## 7 デイキャンプで遊ぼう

開催日時	2019年5月5日（日）10:00～14:00
開催場所	船橋市立青少年第2キャンプ場
目的	学生は子どもと共にキャンプ場で遊び、里親は、子育てについての相談や雑談など、里親同士の交流を行う。そのなかで里親子がリラックスできる空間づくりを行う。
参加者数	本学ボランティア学生52名含む118名 【内訳】大人：93人、子ども：25人、合計：118人
協力	共催：千葉県里親家庭支援センター 後援：NPO 法人こども福祉研究所

### 活動内容 (概要)

里親は都道府県知事が委託する事業であり、この親子の実態把握と支援が基礎自治体ではほとんど行われておらず、地域支援を受ける機会はほとんどないのが現状である。今回のデイキャンプは、学生たちが中心となって仲介し、地域の人たちとデイキャンプをしながら交流する場を提供するものである。

参加学生には事前学習の機会を設け、さらに観光バスを利用し、当日の荷物の持ち込みと学生たちの仲間づくりと課題を共有した。

デイキャンプ企画としてカレーづくりを行い、飯盒炊爨とカレー作りという野外活動体験し、ボール等を使って子供たちと遊び、里親子との交流を楽しんだ。

### 参加学生の感想

- ・今回参加させて頂き、子ども一人ひとり考えも違い好きなことも違うということに改めて実感しました。声のかけ方にも工夫が必要でもっと子どもに寄り添った言い方などを考える良い機会になりました。
- ・里親の多くは責任から支援をあまり受けないで夫婦で頑張ろうとする考えが意外でした。子どもの自立のためにもこういった支援がもっと必要であると感じました。
- ・子どもとお別れの時には、「ばいばいしたくない」や、「また来年も会おうね」と言ってくれるまで仲良くなることができました。この言葉を言われたときにキャンプに参加してよかったなと心から思いました。
- ・普段関わることのない中学生までの子ども達、そして里親子に触れ合うというボランティアで、とても貴重な体験でした。特に、子ども達の行動や考え方など、一緒に遊ぶことで少し知れたのはよかったです。また彼らのことを思い、一人一人の年齢や性格に合わせて接するのは大変でしたが、これらはフィールドワークをしなければわからない感覚だったと思います。



東洋大学学生課外活動育成会

## 8 「福島県いわき市の漁業の現状を発信する」 福島県特産物販売会

開催日時	川越キャンパス：2019年6月3日（月） 白山キャンパス：2019年6月13日（木）
開催場所	東洋大学 川越キャンパス 学生ホール 東洋大学 白山キャンパス 6号館1階 学生部前
目的	福島県産品の販売を通じて、被災地『いわき』を紹介するとともに復興への取組をより多くの方に知ってもらう。

### 活動内容 （概要）

6月3日（月）川越キャンパス、6月13日（木）白山キャンパスで福島県特産品の販売会が行われました。

これは2019年3月に行われた東洋大学学生課外活動育成会企画「福島県いわき市の漁業の現状を発信する」の一環として行われたもので、水産加工品等の伝統食品や、コットン・オリーブの生産に代表される新しい試みとして農業生産による加工品の販売を通じて、被災地『いわき』の紹介とともに復興への取組をより多くの方に知ってもらうことを目的にしています。

完売商品も出るなど、多くの学生・教職員に会場いただきました。



川越キャンパス



白山キャンパス

## 9 福島県いわき市の農業の現状を発信する

開催日時	2019年8月8日～10日（いわき市内農場体験） 2019年9月7日～8日（館林物販）
開催場所	福島県いわき市 群馬県館林市アゼリアモール
目的	福島県いわき市で、特に原発事故の影響が大きい農業関係者を応援すること
参加者数	13名
協力	NPO 法人オリーブプロジェクト NPO 法人ザ・ピープル（福島オーガニックコットンプロジェクト）

### 活動内容 (概要)

今回、東洋大学で集まったボランティアのメンバーで、8月8日（木）～8月10日（土）の3日間、オリーブとコットン栽培のお手伝いに行きました。私たちは、いわき内外のたくさんのボランティアの方々が育ててきたオリーブやコットンが上手く成長できるよう、成長を妨げる雑草を抜いたり、土地が荒れないように草刈りをしたりしました。

#### オリーブプロジェクト：

松崎康弘さんは、若い時に暮らした地中海地域といわき市の気候が似ていることに気づき、2009年にオリーブの調査を立ち上げました。大勢のボランティアの協力があって、苦しかった震災の時期を乗り越え、現在60カ所で5000本を栽培し、オリーブパスタやオリーブ茶など、さまざまな加工品を販売するまでになっています。

畑での作業の後、松崎さんによるオリーブの魅力に関するお話を聞きながら、私たちはオリーブ商品を使った料理をいただきました。

また、私たちは、双葉郡富岡町にある廃炉資料館を訪れ、事故が起こってしまった原因や、廃炉作業を進めるうえで直面している課題についても学びました。いわきの畑で実際に線量計を使って放射線を計測したところ、その数値は東京や館林と変わらないものでした（8月9日のコットン畑＝0.069マイクロシーベルト／時に対して、東京は0.029～0.049。館林市内14カ所の数値は0.035～0.087、平均値は0.063マイクロシーベルト／時です）。

9月7日（土）、8日（日）に、群馬県館林市のアゼリアモールにて、福島県いわき市で作られた商品や、シリア難民によって作られた商品の販売を行いました。

いわき市では、NPOが震災後にコットンやオリーブ栽培のプロジェクトを精力的に進めており、今も大勢のボランティアが参加しています。私たち東洋大生13名も、8月にいわき市で農作業ボランティアに参加しました。現場で作業をして、関係者からいろいろなお話をうかがったうえでの販売だったことから、商品をより身近に感じることができ、商品の良さもお客さんに伝えやすかったです。

オリーブ関連では、お茶、飴、パスタ、ソルト、オリーブオイル、めひかりのオリーブオイル漬けなど、コットン商品として、タオル、手ぬぐい、マスコット

などを販売しました。

シリア関連商品としては、アクセサリー、バッグ、ペンケース、ポーチなどを販売しました。シリアの内戦により周辺の国々に逃れた560万人余りの人々が、今も避難生活を続けていますが、今回販売したのはトルコやエジプトで暮らす女性たちによる編み物や刺繍です。そのデザインはととても繊細です。

8日に、群馬県の上毛新聞に7日の販売の様子が掲載され、その記事を見て来てくださる方もいたおかげで、小さな子供から大人まで、様々な方に買っていただくことができました。2日間の売り上げは、12万6,220円となりました。



いわき市内オリーブ畑／コットン畑



館林アゼリアモールでの販売会

## ⑩ 福島県の子どもに寄り添うプログラム

主催者名	神田 惟行（東洋大学学生：森田ゼミ）、ボランティア支援室
開催日時	2019年8月20日（火）～22日（木）
開催場所	郡山市青少年会館、郡山カルチャーパーク、猪苗代湖町内の農園、南相馬市小高区小高交流センター
目的	以下の目的のために、福島県の被災した子ども達と交流を行う。 1. 子ども達が自分の居場所を感じ、生きていることが楽しい、嬉しいと感じるようサポート。 2. 震災から8年経過した福島の現状を知り学ぶ。
参加者数	65名 本学 :46名（森田ゼミ生:20名、一般公募学生:26名） 学外者:19名（NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島の関係者／子ども:11名、スタッフ:5名、保護者:2名、福島大学学生:1名）

### 活動内容 （概要）

本企画は、森田ゼミ生有志が中心となり、NPO 法人の協力を得て、企画運営した。また、東洋大学学生課外活動育成会の支援金により、本企画を開催することができた。

活動日の初日は、体育館にて子どもたちとレクリエーション等を行い、初対面で生じる緊張感をほぐし、心の距離を縮めた。2日目は、午前中にトマトの収穫作業、午後にはジャガイモ掘りを共同で行った。二日間とも入浴や食事なども共同で行い、生活を共にすることで信頼関係を強めていった。こうした『寄り添い活動』により、目的1は2日間の“子ども達の笑顔”にて達成された。

3日目は、南相馬市職員から被災や復興の現状説明を受けた。市職員による現在進行形の現実、被災と復興を経験していない学生にとっては、考えさせられるものであった。また、バス移動時に、除染作業で発生した大量の「黒い袋」が農地にある風景は、メディアやネットでは分からない、もう1つの現実を身近に感じた。また大量のソーラーパネルで発電が行われていて、復興に向けて実際にどのような事が行われているのかも見学することができた。目的2に関しては、3日目の“学生の真剣な顔つき”で、十分に達せられた。



東洋大学学生課外活動育成会

## II 東洋大生の知らない LGBT の世界 ～ユニバーサルマナー講演～

講 師	田崎 恭平さん（株式会社ミライロ） 日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
開 催 日 時	2019年11月30日（土）13:00～15:30
開 催 場 所	東洋大学 白山キャンパス 1502教室
目 的	ユニバーサルマナーとは「自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもと行動すること」（一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会）を指しますが、今回は LGBT を題材に取り上げ、当事者の視点から LGBT について、グループワークも交えながら理解を深めていくことを試みました。
参 加 者 数	31名
運 営	バリアフリーサークル 歩み
協 力	株式会社ミライロ

### 活動内容 (概要)

#### 構 成

1. 導入グループワーク：進行：日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
2. 田崎 恭平さん（株式会社ミライロ）による講演およびグループワーク
3. バリアフリーサークル歩み 活動紹介

導入グループワークを経て、田崎さんによる講演は前半、ユニバーサルマナーへの理解を深める講義とアクティビティを中心に展開しました。

「人と人との違い」について、できるだけたくさん列挙してみるとというグループワークアクティビティでは、『『違い』を見つけるのは思いのほか簡単だけれど、『共通点』を見つけることのほうが難しい』ということを体感し、ちがいが身近にあることを体感しました。

後半は、LGBT について、知らず知らずのうちに使っている差別的表現について確認しながら、性の多様性についての知識を深めていきました。

「分からないことは、勝手に判断せず相手に聞いてみる」(may I help you?) という、ユニバーサルマナーの観点を盛り込みながら、「もし、後輩が LGBT であるとカミングアウトしてきた場合、どのように対応しますか?」というグループワークを通じてみんなで考えていきました。



東洋大学学生課外活動育成会

## 12 予測できない大地震、あなたはどう備える？

～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験2019～

講師	宮崎 賢哉さん 災害救援ボランティア推進委員会主任、(一社)防災教育普及協会事務局、 社会福祉士
運営	東洋大学 IVUSA
開催日時	2019年11月30日(土) 18:00～12月1日(日) 12:30 (1泊2日)
開催場所	東洋大学 白山キャンパス 4号館 4B14教室
目的	1. 参加者の防災・減災のための備えの意識の向上。 2. 防災・減災のために自発的に行動できる学生リーダーの育成。 3. 東洋大学の災害時対応について理解すること。 4. 東洋大学白山キャンパスにおける、大規模地震時の行動についての動きを実体験し、実際の場面でスムーズに動けるようになること。
参加者数	14名

### 活動内容 (概要)

今回の体験型プログラムは、実際に大規模地震が発生し、交通機関が突然ストップしたという状況を想定し、キャンパス内に留まり発災直後の状況を追体験することで、実際の場面でどのように行動するか、その時に向けてどのような備えをすべきか、ということについて学びました。

#### ● 1日目(2019年11月30日(土))

第1部：本編 宿泊サバイバル体験(4号館地下1階 4B14教室)

##### ①オリエンテーション

日比野コーディネーターによる本企画の趣旨・流れ・注意事項の説明、ならびにスタッフの紹介などを行いました。

##### ②アイスブレイキング

災害時にも互いに助け合えるように。初めて出会う参加者同士、まずはお互いのことを楽しみながら知るアクティビティを行いました。

##### ③活動紹介(IVUSA)

今回、本企画にかかわってくれた学生団体 IVUSA による活動紹介を行いました。

##### ④宿泊サバイバル体験プログラム(講義、夕食づくり、簡易トイレづくり、就寝スペースづくり)

首都直下型地震が発生した状況を具体的にイメージするために、東日本大震災時の首都圏の状況についての映像と、首都直下型地震の被害想定に基づき製作されたシミュレーション映像を視聴しました。その上で宮崎さんより、東日本大震災の状況と今回想定されている首都直下型地震とは状況がまるで違うので、「東日本の時に大丈夫だったから今回も大丈夫」などとは思わないことが重要、とのお話を交えながら、帰宅困難者とはどのような人のことをいうのか、被害を拡大しないため慌てて帰宅しようとせず、一晩程度は滞留すること

も大切になってくるお話をいただきました。

講義ののち、実際に1泊大学に留まることを想定し、①食事づくり、②就寝スペースづくり、③簡易トイレづくり（簡易トイレは実際には使用せず）を、参加者で手分けしながら行いました。

途中で、計画停電を想定し、会場の電気が消えるというシークレットミッションも差し挟まれましたが、参加者は工夫を凝らしながら、準備を進めていきました。

## ●2日目（2019年12月1日（日））

宿泊サバイバル体験プログラム（朝食づくり、撤収作業）

第2部：ワークショップ（4号館地下1階 4B13教室ほか4号館各階）

### ①防災クイズラリー

東洋大学 IVUSA（以下、IVUSA）による白山キャンパス4号館を使った防災クイズラリーを行いました。このクイズラリーはIVUSAの学生が考えた防災に関するさまざまなクイズに制限時間内に回答するもので、3つのチームに分かれてチーム対抗で行われました。終了後の答え合わせでは、難問とされていた問題をすらすら回答するチームが現れ、出題者が驚いていると、問題のすぐ横に掲出されていたポスターに回答が含まれていたことが発覚し、出題者自身もその事実に気づかずに出題していたことから、宮崎さんから、「情報を提供しているつもりでも本当の意味で『伝える』ことは難しい。ということが身をもって経験できたと思います。」とコメントがありました。

### ②避難所運営ゲーム HUG

避難所運営ゲーム HUG とは、避難所運営をシミュレーションできるカードゲームです。

積まれたカードを開いていくと、さまざまな家族構成の方や障害をもった人、外国人旅行者、ひきこもりの方、路上生活者やペット同伴者などが登場します。カードは大きさが設定され、避難所の図面を占有するため、限られたスペースにどのように配置するか、避難所運営者になったつもりで考えていくアクティビティです。

頭で考えたり、口にしたりすることは簡単でも、実際にその通りにしようとするほど難しいことか、追体験できるもので、グループ内でも議論が白熱していました。

### ③2日間のふりかえり

#### 参加者の感想

- ・台風19号の時は避難勧告が出ていた地域だったものの被害があまりなく避難所での生活はしなかったもので、こうして実際に段ボールを敷いてアルミをかぶって寝ることを体験することができて、これから起こるかもしれない首都直下型地震にある程度備えられたようなとても貴重な経験になりました。
- ・講師の宮崎さんからフィードバックやアドバイスをいただけたことは貴重な経験になりました。想像はできていてもいざ動いたり、人を動かしたりする難し

さを実感しました。

- ・ テレビで見る雑魚寝はどれだけ寝づらく、どれだけストレスになるか少しは理解できたと思います。
- ・ 今回はあくまでワークショップだったので実際に地震や災害が起きた時にどれだけ冷静に判断ができるか分かりませんが、今回参加したことでイメージができたので少なくともどう動いたらいいか考えることができると思います。



## 13 被災地の大学生と東洋大生が取り組む 被災地支援のあり方 in 南三陸

協力団体	*現地受け入れ:Project “M” =宮城県南三陸町出身の学生を中心として、震災経験の過去と、東北の今を発信する活動を行っている（震災当時中学2年生）
開催日時	2020年2月14日（金）～16日（日） 2泊3日
開催場所	宮城県 南三陸町
目的	1. 東洋大学の学生による被災地でのボランティア活動。 2. 被災地で求められている支援活動について、学生の視点で考える。 3. 被災地の大学生との交流を踏まえて、学部・学科を超えた東洋大生の連携・協働に取り組む。 まもなく震災9年目を迎える被災地の中で、地域に根付く文化や産業の体験、地元出身者との交流といったプログラムを通して、これからの震災・被災地への関わり方を考える。
参加者数	21名

### 活動内容 （概要）

宮城県南三陸町出身の学生を中心として、震災経験の過去と、東北の今を発信する活動を行っている〈Project “M”〉に3日間のプログラムをコーディネートしていただいた。

震災語り部、里山の仕事体験、伝統芸能の鑑賞と体験ワークショップ、地域の若者との交流等 地域に根付く資源や文化、そこに生きる人が、震災以前～震災～これまでの時間で、どのような変化や歩みを経たのか等を体験活動を通して感じてもらい、これからの地域の在り方や震災体験を将来に残し伝えることの意義などを、フランクに議論できるようなツアーとなった。

#### 《スケジュール》

##### ● 1日目

旧戸倉中学校 語り部  
オリエンテーション  
ワークショップ

##### ● 2日目

林業体験  
地元商店街散策  
郷土芸能ワークショップ  
交流会

##### ● 3日目

振り返りワークショップ

## 参加者の感想

- ・ 初日に行われた語り部では、戸倉中学校（現在の公民館）で震災当時の状況を聞かせて頂きました。実際に生の声を聞きながら当時から止まったままの時計を見ると、今もなおその場所だけ時間が止まっているように感じました。

二日目の一次産業体験・郷土芸能体験はどちらも都内では中々触れることの無い貴重な経験をさせて頂きました。人の手が一切加わっていない山を観察したり、実際に古い文化の世界へ飛び込むことで、興味・関心が沸くだけでなく将来的にこれらの綺麗な自然や郷土芸能が廃れて欲しくないという願いも同時に感じました。

- ・ 現地での活動を通して、南三陸の様々な魅力に触れることが出来ました。林業体験では、自然の豊かさに触れると共に、林業の詳細や課題、問題点などを知りました。私は、林業についての知識は皆無であったため、とても理解が深まったと思います。特に、木が多いことが問題になっているとは思いませんでした。

商店街の訪問では、地元の食品のおいしさを知り、また口にしたいと思うものがたくさんありました。また、住民の方々の元気な姿を見て、まだまだ元気のある町だと感じました。

鹿踊体験では、実際に練習をして純粋に楽しかったです。長い間、伝統芸能として受け継がれてきた鹿踊を今でも多くの人が踊っていることは素晴らしいことだと思いましたし、私自身も魅力を感じました。

- ・ 私は行く前は、もう9年近くたっているから家がそれなりにあるのではないかと想像していました。しかし実際には家はほぼなく、道路もまだ整備中でした。

初日に戸倉公民館に行き、津波が建物の1階部分まで来たというお話を聞きました。自分の目で海からの距離を見て、テレビで見るだけでは絶対にわからない、どれほどの大きさの津波が来たのかを知ることができました。この3日間を通して最も強く感じた「自分の目で見る」ことの大事さを、被災現場を見て思いました。

また、復興ってどこまでが復興か？という話が出ました。人それぞれ思い描く復興の形があって、目指すものも違うのだと思います。復興が進んでいるのかも人によって感じ方が変わりますが、私はさんさん商店街や町並みを見て、少しずつではあるかもしれないけれど復興しているのだと感じました。かさ上げされた道路や堤防からも、前よりよくしようという思いが伝わってくるようでした。

- ・ ワークショップについては、現地で見た被災地の状況や実際に被災した方のお話をもとに自分の感じたことを深掘りすることのできる良いプログラムとなった。また、自分以外の考え方や価値観に触れることができ、違った視点からも物事を考えることができた。

ワークショップでは普段接する機会が少ない他の学部の方々と色々な意見を共有できとても有意義時間でした。ワークショップが始まってすぐは緊張していましたがProject Mさんがアイスブレイクのために企画を催して頂いたのでリラックスして話すことができました。私は被災地について考える事はよくありましたが、それを人に伝えるということは滅多にありませんでした。実際に

ワークショップをしてみて自分には無かった考え方、価値観が多くあり考えさせられました。またワークショップを通じて私たちが被災地の復興のために何ができるのかを考え易くなったと感じました。



## ボランティア支援室イベント

## 14 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

講 師	ネス外国語会話 野村 明子先生
開 催 日 時	2019年6月15日（土） 13:00～16:30
開 催 場 所	東洋大学 白山キャンパス 1602教室
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人に対するおもてなしの心をグループワーク等を通じて学ぶことにより、相手の立場に立って思考する意識を芽生えさせ、協調性やコミュニケーションスキルの向上を図る。</li> <li>・ボランティアマインドの醸成が図り、ボランティア活動への参加意欲の喚起にも繋げる。</li> </ul>
参 加 者 数	36名
協 力	共催：東京都

活動内容  
(概要)

外国人おもてなし語学ボランティアとは、街中で困っている外国人を見かけた際などに簡単な外国語で積極的に声をかけ、道案内等の手助けをしていただくボランティアで決まった日時・場所で活動するボランティアではなく、日常生活の中で自主的に活動するものです。

この講座では、簡単な英語を使った外国人とのコミュニケーションに関する基礎知識や、外国人に対する「おもてなし」の心を身に付けるため、おもてなしや異文化コミュニケーションに関する映像資料やさまざまなグループワークを通して学習しました。

修了者は、「外国人おもてなし語学ボランティア」として東京都に登録され、登録証とバッジが渡されました。

## 15 夏のボランティア相談会

開催日時	2019年6月24日（月）～7月4日（木）
開催場所	東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階 オープンスペース
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>・夏の長期休暇中にボランティア活動への参加を検討している学生に向けて情報提供する。</li><li>・さまざまなボランティア活動、NPO 活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。</li><li>・ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。</li></ul>

### 活動内容 (概要)

ボランティア支援室コーディネーターが、夏休みに学生を募集しているボランティア活動情報や、夏休みの体験ボランティアプログラムを実施している地域のボランティアセンターの情報等を配架・掲示し、相談会に来場した学生のボランティア活動に関する相談に応じました。

ボランティア支援室イベント

## 16 宿題サポート ～みんなでたくさん学び、遊び、話そう！～（飯能市）

講 師	林 大介(東洋大学ボランティア支援室 ボランティア・コーディネーター)
開 催 日 時	2019年8月6日(火)及び7日(水) それぞれ10時～12時、13時～16時 ※12時～13時は昼食休憩
開 催 場 所	飯能市子育て総合センター 飯能市山手町19-4
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み中の飯能市の小学生が大学生と交流する場を設け、夏休みの宿題に取り組む機会とする。</li> <li>・小学生が子育て総合センターの存在や役割を知るとともに、乳幼児との触れ合い体験を通じて、自分よりも小さい子と関わる場を創る。</li> <li>・東洋大学の学生にとって、ボランティア活動に取り組む機会を設ける。</li> <li>・主に福祉を学んでいる東洋大学の学生が、児童福祉の現場を体感する。</li> </ul>
参 加 者 数	〈子ども〉6日＝13名(小1:1名、小3:2名、小4:3名、小5:3名、小6:4名) 7日＝10名(小1:2名、小3:2名、小4:1名、小5:2名、小6:3名) 〈東洋大学学生〉6日:9名、7日:8名

活動内容  
(概要)

内 容

※2日間とも同じプログラム

- ・ 保育体験：どんぐりルームに来所されている乳幼児・保護者との触れ合い体験
- ・ 夏休みの宿題のサポート：「答えを教える」のではなく、考えるためのヒントを出す
- ・ 遊戯室(2階ホール)で遊ぶ：ドッチボール、鬼ごっこ、だるまさんが転んだ、風船バレーなど

当日の様子

- ・ 大学生にとっては、小学生世代の子どもと接する機会がほとんどなく、想像以上の小学生のパワーに圧倒されていた。
- ・ 過去に参加した子どもが今年度も参加しており、成長を伺えた。
- ・ 大学生と小学生の割合がほぼ半々で、安心して対応できる状態だった。

参加学生の感想

- ・ 小学生に宿題を教える上で最も難しいことは、椅子に座ってもらうことだと知りました。複雑な内容があるわけではないので、いかにやる気を引き出せるかにかかっていました。子供達とのふれあい方を学ぶことができて良かったです。ボール遊びでは子供達のエネルギーに圧倒され、つい10年ほど前まで自分が小学生だったことが信じられないほどでした。
- ・ 乳幼児のいるどんぐりルームと小学生のみで遊べるプレイルームを行き来できたことで、子どもたちとの関わり方の違い、どう関わっていくのかを直に感じられてとても良かったです。

### 小学生の感想

- ・ 大学生の人たちと楽しくべんきょうしたりあそべてよかったです。
- ・ いい人ばかりでよかった
- ・ やさしい人ばかりでよかった
- ・ 今日、勉強したりキャッチボールしたりできてとてもよかったです。またあいたいな～バイバイ！またあおうね。
- ・ 来年も来てもらって、いっしょに勉強したりあそびたいです。



ボランティア支援室イベント

## 17 東京オリンピック・パラリンピック大会の競技場などを巡る 2019年度ベニューツアー

主 宰	中島 誠之さん（日本赤十字社東京都支部設立準備団体「スポーツボランティア奉仕団」委員長、長野オリンピックボランティアリーダー）
開 催 日 時	2019年8月10日（土）
活 動 場 所	コース：都営大江戸線勝どき駅→晴海トリトンスクエアオフィスタワー→選手村建設地→晴海客船ターミナル→晴海大橋→有明体操競技場・有明アリーナ・有明アーバンスポーツパーク→有明テニスの森→パナソニックセンター→国際展示場駅（りんかい線乗車）→新木場駅→東京辰巳国際水泳場→日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター（見学含む）
目 的	2020東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方のヒントを提示する
参 加 者 数	6名

### 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、2020東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方のヒントを提示するため、1998年長野冬季オリンピック・パラリンピック時のボランティアリーダーとして活躍され、日本赤十字社「スポーツボランティア奉仕団」の設立準備に携わる中島誠之さんのアドバイスをいただきながら、今回同氏が企画した「ベニューツアー」への本学学生参加にあたってのコーディネーションを行いました。

事前にオリエンテーションの機会を設け、当日はコーディネーターがツアーに帯同しました。

本ツアーには学生の皆さんから多数の参加申し込みが寄せられましたが、選考を経て定員となる6名を選出。中島さんが教鞭をとられている日本外国語専門学校の学生の皆さん、上智大学オリンピック・パラリンピックプロジェクト「go beyond」の学生の皆さん、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の職員の方々をはじめ、多様なバックグラウンドをもつ40名以上の参加者で実施しました。

### 内 容

東京オリンピック2020まで1年をきりました。みなさんはどのように東京オリンピックに関わろうと思っているのでしょうか。会場に行ってみたり家のテレビで観戦したり、関わり方は人それぞれだと思います。しかし、もっと近くで携わりたいけど何をしたら良いかわからないという方はいないでしょうか？私はまさにその状態でした。そこで、東京2020ベニューツアーに参加することに決めました。

今回のベニューツアーでは勝どき駅からスタートして選手村やオリンピック会場を数カ所周りました。会場をただ周るだけでなく実際に炎天下の中を歩き、暑さを体感したりゴミ拾いをしたりオリンピック組織委員会の方と意見を交換したりしました。意見交換のなかでは、「実際に歩いてみると日陰が少なく体力が奪われやすいので、暑さ対策をしっかりと考えなければいけない」ということが挙げられました。大会当日は、暑さはもちろん、大勢の方が訪れ交通機関などで混乱が起こるかもしれません。そういうときに、案内できるように場所をあらかじめ把握しスーパーや自動販売機の場所も頭に入れておくと、初めて訪れた人に

スムーズに対応することができます。ベニューツアーを通してこういった小さなことからおもてなしをしたいと考えるようになりました。ボランティアに参加することだけがおもてなしではありません。語学にあまり自信がなくても、困っている人がいたら気づいて声をかけてあげることが大事だと思います。私はベニューツアーをきっかけにオリンピックへの私なりの関わり方を考えることができました。興味がある方は是非会場に足を運んでみたりイベントに参加したりして、積極的に行動をしてみしてほしいです。

(ベニュー参加学生 宮下 亜美、  
ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲)



## 東洋大学ボランティア WEEK 2019 ～人権とボランティアについて考えよう～

### 各種イベント概要

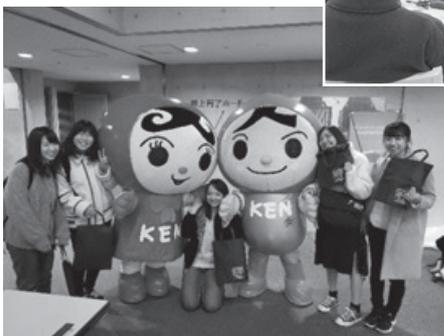
会場キャンパス	開催日	企画名
朝霞	12/ 3 (火)	「学校の中の人権問題～“ブラック校則”を考える」
白山	12/ 3 (火)	『ボバティー・インク』上映会
白山	12/ 5 (木)	SO × 東洋「ユニファイドスポーツを知っていますか？」
川越	12/10 (火)	CSR 論 / 環境コミュニケーション論 「企業と人権」
朝霞	12/10 (火)	『さとにきたらええやん』上映会
白山	12/10 (火)	「貧困と社会的排除／貧困論」
板倉	12/13 (金)	「医療を受ける権利」
白山	12/13 (金)	東洋大生がワークショップで考える SDGs 「世界がもし100人の村だったら」

【関連イベント】(白山) 12/12 (木) ボラカフェ「東洋大学と SDGs ～身近なことを“自分ごと”に」(P44～45参照)

ボランティア WEEK 上記企画は、法務省、東京法務局、公益財団法人人権教育啓発推進センターの後援により実施されました。



12/5 (木)、本学白山キャンパスに  
まもる君とあゆみちゃんが来てくれました！  
学食や井上円了ホール前で  
人権啓発グッズ（冊子や防滴スマホポーチ）  
を配ってくれました。



## 18 東洋大学ボランティア WEEK 2019

## ●学校の中の人権問題～“ブラック校則”を考える

講師	NPO 法人ストップいじめ！ナビ 副代表 須永祐慈さん
開催日時	2019年12月3日（火）16:20～17:50（質問時間も含む）
開催場所	東洋大学 朝霞キャンパス講義棟 306教室
目的	東洋大学ボランティアウィーク～人権とボランティアについて考えよう～の一環
参加者数	63名

活動内容  
(概要)

講師の須永さんから、ブラック校則に関する講義をうかがったのち、質疑応答を行った。

## 講義概要

- ・2017年に、大阪の府立高校に通う女子高校生が、「地毛証明書」の提出を学校側から求められたことに対して、人権侵害だとして裁判に訴えたことをきっかけに、「ブラック校則をなくそう！プロジェクト」が立ち上がった
- ・プロジェクトによって、いわゆる「ブラック校則」（「不合理・理不尽な校則」と「不適切な運用・指導」の掛け算（荻上））についてのアンケート調査が行われ、約4000人から回答を得た。
- ・ブラック校則は、髪の毛の黒染め教養や毛髪指導、服装のチェック、さらには下着の色の確認（しかも男性教師が、女子生徒に対して実施）、差別や学習権の侵害（再登校を認めない、給食を残すと遊べないなど）、健康被害（体育や部活時の飲料禁止、10キログラム以上の荷物を毎日持参）など、特別なことではなく、どこにでもありうるということが分かった
- ・こうした課題を解決していくためには、議論を起こす（署名、告発、啓発）、調べる（意識調査、統計調査、各学校の校則調査実態など）、広く伝える・声を上げる（報道、校内集会、研修、SNS）、促す（国・教委、報道、教育関係者、児童生徒への働きかけ）、変え続ける環境づくり（校則改訂ルールづくり、第三者の参画、日常的議論、授業プログラム）などが必要。

## 学生の感想

- ・私も地毛が茶色いので、証明書を提出していた。校則がエスカレートして理不尽な校則のせいで不登校になるのはおかしいと思った。
- ・校則に疑問をもたずに守ってきたが、今思えば、何のためだったのかと思うことが多々ある。
- ・教員を目指しているが、現場に立つとき、生徒の意見をどのように扱い、対応したらいいのか、考える機会になった。
- ・理由や説明もないままに「校則だから」と先生たちが怒ったりするのは理不尽だと思う。

## ●映画「ポバティー・インク～あなたの寄付の不都合な真実～」上映会

企画・運営	ボランティア支援室イベントサポートスタッフ
開催日時	2019年12月3日（火）12:40～14:30
開催場所	東洋大学 白山キャンパス 6号館6213教室
目的	映画を通じて寄付や援助というテーマを通じた、民間非営利組織やボランティア団体などにおける国際協力活動の本質を見つめる機会。
参加者数	17名

### 活動内容 (概要)

「あなたの『善意』が、誰かを傷つけているかもしれない」。

いわゆる途上国の発展を期して、良かれと思って続けられてきた「援助」が「ビッグビジネス」と化し、結果として現地の産業が衰退し、市場経済が破綻していくという現実。

折しも、上映会の開催された12月は寄付月間でもあり、近年は募金をはじめとするファンドレイジングの手法も、クラウドファンディングを含め多様化しているという中、映画を通じて寄付や援助というテーマを通じた、民間非営利組織やボランティア団体などにおける国際協力活動の本質を見つめる機会となりました。

映画ではハイチやケニアなど海外の事例を取り上げていますが、日本においても例えば東日本大震災以後に、子どもたちの学習支援を目的に進められた無料塾の活動や、参考書を届ける活動がありました。しかしこれらも、復興の状況を見計らいやがては現地でもともに行われていた経済活動に移行していかなければ、地域における経済に望ましくない影響を与えることとなります。

社会課題に関わる上で、「寄付」はボランティア活動とはまた違った「お金」で「参加」をする手段の1つです。だからこそ、「参加」の先にある仕組みや支援の行方について関心をもつこともまた肝要なことであると考えられます。

ボランティア支援室イベントサポートスタッフによる初めての企画は、こうしたことを考えさせてくれる機会となりました。



## ●障害者週間シンポジウム「ユニファイドスポーツ」を知っていますか？ ～その魅力と意義、“For”から“With”へ～

講 師	有森 裕子氏（公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 理事長） 竹村 牧男（東洋大学 学長） 志村 健一（東洋大学 社会学部教授） 高山 直樹（東洋大学 社会学部教授、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本理事）
開 催 日 時	12月5日（木）13:00～14:30
開 催 場 所	東洋大学 白山キャンパス 井上円了ホール
目 的	シンポジウムを通してユニファイドスポーツについて理解する。
参 加 者 数	553名 【内訳】学生：513名 学外：40名
協 力	協 力：公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本 後 援：法務省、東京法務局・公益財団法人 人権教育啓発推進センター 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 主 催：東洋大学 ボランティア支援室

### 活動内容 (概要)

2019年12月5日（木）、本学井上円了ホールにて、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（以下「SON」という。）の有森裕子理事長を迎え、『障害者週間シンポジウム「ユニファイドスポーツ」を知っていますか？～その魅力と意義、“For”から“With”へ～』と題したシンポジウムを開催しました。

有森理事長は、『世の中はそもそも形が「ユニファイド」になっています。しかしながら、それぞれ人々の気持ちや理解はどうでしょうか。そして、「ともに生きる社会」とはいうものの、いったいどうやったら良いだろうか、ということを考えている方がいらっしゃるのではないかと。そんなときに「スペシャルオリンピックス」は、スポーツを通じて一緒に生きていく、そして、生きがいを見出していく、そんな世界をつくるための道具としてあります。』と講演していただきました。続いて、竹村牧男学長は『TOYO SPORTS VISION』に基づき、スポーツに関する本学の取り組みや、「共生」の言葉が意味する深さなどについて講演しました。

さらに、バスケットボールのユニファイドスポーツプログラムに参加した学生4名（社会学部／志村ゼミ）が登壇して、この種目を体験したことによる「気づき」や「学び」を発表、司会の志村健一教授（社会学部）から、『SO 地区組織があるので、興味があれば参加して欲しい。参加できずとも、白山キャンパス西門にある自動販売機の売上の一部がSON 東京へ寄付されるので、そういった支援も可能です』とのコメントがありました。最後に、高山直樹教授（社会学部／SON 理事）は、家庭、学校（職場）の居場所が続く、3番目の心地の良い「サードプレイス」としても、ユニファイドスポーツが重要な役割であると総括し、シンポジウムは終了しました。

今回のシンポジウムは、2018年3月に学校法人東洋大学がSON 及び認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・東京（以下「SON 東京」という。）と締結した国内初の「ユニファイドスクール・パートナーシップ協定」に基づいた連携

協力の一環として、開催されました。

東洋大学社会貢献センターでは、今後も SON 及び SON 東京との連携協力し、ユニファイドスポーツの機会を学生へ提供するなど、普及や強化に協力してまいります。

【ユニファイドスポーツとは】

ユニファイドスポーツとは、知的障害のある人（アスリート）と知的障害のない人（パートナー）が混合チームを作り、練習や試合を行い、スポーツを通じてお互いに相手の個性を理解し合い支え合う関係を築いていく取組みで、世界中で展開されており、世界大会公式種目としても実施されています。バスケットボール、ボッチ（SO ボッチャ）をはじめ、夏季／17競技（日本でのみ実施のフライングディスクを含む）、冬季／7競技の“全24競技”を実施しています。（公益財団法人スペシャル オリンピックス日本の Web サイトから引用）



## ●企業における人権への取組

講 師	秋山 映美氏（株式会社クレアン）
開 催 日 時	2019年12月10日（火）9:00～10:30
開 催 場 所	東洋大学 川越キャンパス 512教室
目 的	企業の社会的責任（CSR）の一環で、人権への取組についての基本的な考え方と具体例を学ぶことで、人権への理解を深めること。
参 加 者 数	41名 【内訳】学生：41名、一般：0名
協 力	総合情報学部の専門科目「CSR論」（担当：小瀬博之）と連携して実施

### 活動内容 （概要）

SDGs や人権等に関するコンサルティングを行っている株式会社クレアンの秋山映美氏をお招きして、「企業における人権への取組」というテーマで講義を行っていただいた。

最初に「人権とは」というテーマで、人口問題や環境問題などと実験問題との関わり合いについて、クイズを交えながら説明いただいた。続いて、グローバルに認識されている人権問題を概観するとともに、日本と世界の人権に対する認識のズレを説明いただいた。さらに、世界中に多数の人権被害者がいることを数字で示し、SDGs「誰一人取り残さない」のベースとして人権があることを説明された。

次に「ビジネスと人権に関する社会動向」として、企業の影響力が国家並みに拡大していることが示され、企業と人権とのかかわりがバリューチェーン全体に及ぶこと、事例として原材料の産地でみられる人権侵害の例が紹介された。また、児童労働について、製造工場の周辺地域でみられる人権侵害、労働条件・環境における人権侵害などの例を詳しく解説された。一般的に見られる、気づかずにやっている差別も人権問題であること、日本で働く外国人に対する技能実習制度の人権侵害についても言及された。最後にビジネスと人権の基準とフレームワークについて経緯が紹介された。

最後に「企業の取り組み」として、日本の大企業が買収した海外企業や海外での調達先での児童労働や賃金の過少支払い、過酷労働などの人権侵害事例について事例が報告された。また、国連が定めたビジネスと人権に関する児童原則、各国での法制化の動き、投資家の関心の高まり、投資家と NGO による企業の人権の取り組み評価、海外企業の改善事例、経団連が企業行動憲章に「人権の尊重」追加、人権への対応を進めるために企業に求められていることを説明された。

受講した学生からは、「人権問題に対する関心が高まった」「自らも気をつけた」「さまざまな人権問題が有ることを知った」「日本と世界の人権に対する認識の違いを知った」「問題解決の可能性を認識した」「環境問題との関わりを知ることができた」「クイズを交えながらの講義がよかった」など、好意的な感想が多くあった。



### ● 『さとにきたらええやん』 上映会

講 師	内田 塔子 (ライフデザイン学部 准教授)
開 催 日 時	2019年12月10日 (火) 10:45 ~ 12:20
開 催 場 所	東洋大学 朝霞キャンパス講義棟 3階314教室
目 的	映画『さとにきたらええやん』の鑑賞を通して、日本の現代社会が抱える人権問題について考える。
参 加 者 数	80名

#### 活動内容 (概要)

2019年12月10日 (火) 10:45 ~ 朝霞キャンパスにおいて、ボランティア WEEK 2019企画の1つとして「『さとにきたらええやん』 上映会」を開催しました。

この映画は、日雇い労働者の街・釜ヶ崎で38年間続く子どもたちの集いの場「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちの日常を描いたドキュメンタリーです。



## ●だれもが安心して地域で生活をおくることが出来る社会に向けて

講師	清野 賢司氏（NPO 法人 TENOHASI 事務局長）
開催日時	2019年12月10日（火）16:30～18:00
開催場所	東洋大学 白山キャンパス 6101教室
目的	社会的排除の典型である「ホームレス」の問題について、より具体的に学ぶため支援団体 TENOHASI の事務局長清野賢司さんを講師として、TENOHASI の活動から見える、日本社会におけるホームレス問題の現状と課題について学ぶことを目的とする。
参加者数	96名 【内訳】 学生：94名（うち履修生：92名・履修生以外：2名、一般：2名）
協力	なべさん（TENOHASI のメンバー、当事者）

### 活動内容 （概要）

今回の授業では、TENOHASI の支援活動に関する VTR を事前に視聴しその感想・質問事項等を予習としたため、TENOHASI としてのホームレス支援については簡単な解説をいただき、主に当事者（なべさん）の路上生活に至る過程や路上生活経験、支援制度を利用して初めての感想等を、清野さんから聞き取る形で進めて頂いた。また、学生の質問にも適宜回答を頂いた。これまでのグループワークでは、路上生活者には「屋根」と「仕事」を提供すれば社会へ再参加ができ課題解決に至ると考える受講生が多かったが、必ずしもそれだけでは不十分であること、「支援」のレベルが低い場合には再参加に至らず支援制度（生活保護）の繰り返しの利用になってしまうこと、子どもの頃からの不利の蓄積がホームレスに至るリスクを高めることなどの気づき・感想が多く見られた。当事者の話を聞くという貴重な経験ができ、知らず知らずのうちに持っている、ホームレスに対する偏見への気づきにも言及する者が多かった。

#### 受講生の感想

- ・この講義を取るまでは、ホームレスの人たちについて知ろうと思うことや、とくに注目してみたり考えることもありませんでした。ですが、今日の講義を聞いて、ホームレスの人々もそれぞれ事情があって、なりたくてホームレスになっている訳ではないことや、なんとかして普通の生活に戻ろうとしているということを知って、ホームレスに対しての見方や考え方が変わりました。ホームレスを支援、援助する人たちはなぜ援助しようと思ったのか疑問に思っていたけれど、実際に援助活動をしている人の話を聞くと、だんだんと表情が明るくなったり元気になったりしてくれることの喜びを感じることができて、素晴らしい活動だなと思いました。
- ・路上生活を経験したのちに、今では人をサポートすることが生きがいになる、この支援の輪というのは、支援の理想形だなとおもいました。支援される人が一生支援される立場で終わるのではなく、その人本来の姿や力を引き出す支援になっているなと思いました。
- ・今回わたしは、この授業を取っていないのですが、興味があり話を聞かせていただきました。私がこの講義を受けるまでホームレスの方に対して持っていたイメージは、決して良いものではありませんでした。しかしこの講義を受け、

大きくイメージが変わりました。障害を抱えながらも必死に努力をしている人が多いこと、真面目で不器用だが心優しい人が多いこと、いま日本の政府が取っている政策の善し悪し、TENOHASHI が実際に行っている活動など、様々な普段触れられない世界の話にとっても興味を惹かれました。世の中にはこういう活動をしている団体もあるんだと考えさせられました。私はいま大学1年生で、様々なボランティアに興味を持っています。国内国外様々な場所で、様々な困っている人たちをなにかの形で助けてあげられたら良いなと思いました。



## ● 「医療を受ける権利」

～①小児心臓移植問題から考える ②創薬研究の現場から～

講師	町野 朔氏（上智大学名誉教授） 鈴木 聡氏（HAB 研究機構）
開催日時	2019年12月13日（金）15:00～16:30
開催場所	東洋大学 板倉キャンパス 1102教室
目的	臓器提供や臨床研究分野の医療の進歩とそれに伴う人権に関する問題について、その現場で仕事をされている2名の講師を招き、研究現場での現状や法整備の問題について理解を深める。
参加者数	約270名 【内訳】学生：270名（生命科学部・食環境科学部）
協力	児島 伸彦、藤村 真（生命科学部教授）

### 活動内容 （概要）

町野朔氏（上智大学名誉教授）と鈴木聡氏（HAB 研究機構）の2名の先生をお迎えして、「医療を受ける権利」について講演をいただきました。まず、町野先生から、法律の専門の立場から人権についての考え方について、歴史的な事例を踏まえながら説明がありました。「精神科病院の宇都宮病院事件」、「国が続けたハンセン病患者の隔離政策」や「ゴミ屋敷やひきこもりなどの統合失調症患者」、「小児心臓移植」などの例をあげて、人権とは何かについて問いかけがありました。「社会的合意」にもつづいて人権を判断すると、「少数意見」が無視される場合がある。「治療を受ける権利」もあるが「治療を受けない権利」もある。一方で、「助

けられる命」が法の規制で助けられない場合もある。法律の立場からまた医療についての町野先生の講義は、板倉キャンパスの学生にはとても新鮮でインパクトがあり、深く考えさせられる内容でした。

鈴木先生（HAB 研究機構）からは、創薬の最前線で、不治の病であったがん治療薬等が次々と開発されていることが紹介されました。この創薬研究には、ヒト組織・細胞が重要な位置を占めるようになってきていることが科学的に解説されました。欧米では移植不適合となった臓器が創薬研究に役立てられているが、日本では法的な規制により廃棄されるなどの現状があり、HAB（Human and Animal Bridging）研究機構はこれらの問題解決にむけて設立された特定非営利活動法人（NPO 法人）であることが紹介されました。また、創薬にかかわる研究費が1000億円を超えてきており、薬の高価格化がすすんでいるが、日本と米国の薬価の決め方や医療保険制度の考え方の違いがあり、法律や社会システムが「治療を受けられる権利」に影響することも紹介されました。アンケートでは、多くの学生が、通常の授業では学べない内容にふれることができたこと、そして、医療や創薬研究が、倫理だけでなく、人権と法律についても考える必要があることを学ぶきっかけになったことが伺えました。



## ●東洋大生がワークショップで考える SDGs 『世界がもし100人の村だったら』

講師	八木 亜紀子さん（認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）事業主任）
開催日時	2019年12月13日（金）16:30～18:00
開催場所	東洋大学 白山キャンパス A101教室（10号館1階）
目的	ワークショップ（参加型学習）を通して、手軽に楽しく SDGs（持続可能な開発目標）の理解を深める。
参加者数	25名

### 活動内容 （概要）

2019年12月13日（金）16:30～白山キャンパスにおいて、ボランティア WEEK 2019企画の1つとして「東洋大生がワークショップで考える SDGs『世界がもし100人の村だったら』」を開催した。

まず初めに講師の八木亜紀子さんによる、所属される認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）のご紹介とアイスブレイクの後、実際のワークショップ「世界がもし100人の村だったら」を行った。これは、「SDGsを理解するために、まずは今私たちが生きている世界について知る」ことを目的としたワークショップで、参加者は、それぞれに渡されたカードに沿って年齢別や大陸別、言語別に分けられたり、ビスケットを富に見立てて世界の貧富の差を体感した。

最後に「SDGsについて考えてみよう」をテーマに、講師から持続可能な社会に向けて普段の生活や活動を見直すことから始めることの大切さ等についてお話があった。

### 参加者の感想

- ・参加者を世界の人々の縮図として実際にグループに分れることで、二酸化炭素の排出量や使用言語、富の偏りなどが可視化され、普段規模が大きすぎて想像も及ばなかったことが良く理解できました。
- ・現状を知ること、なぜこれから SDGs が重要視していく必要があるのか理解を深められたと思います。





ボランティア支援室イベント

**19 中野区 少年少女野球教室**

開催日時	2019年11月24日（日）
開催場所	中野区立上高田野球場
目的	哲学堂公園のある中野区との地域連携および野球部の社会貢献活動を支援する。
参加者数	約90名 【内訳】 本学学生：約20名、小学生：約70名
協力	東洋大学 野球部

活動内容  
(概要)

2019年11月24日（日）、中野区立上高田野球場にて開催されました。例年、哲学堂公園内の野球場で開催しておりましたが、今年度は工事のため、上高田野球場での開催となりました。

当日は、悪天候の中、中野区内の小学校5・6年生約70名が参加し、本学硬式野球部員の約20名による、軟式ボールを使った実技指導等を行いました。小学生達は、大学生のデモンストレーションを見て、この様なプレーがしたいと思うような、真剣な眼差しで見学していました。

本学硬式野球部員らも、小学生のプレーを見て、過去の自分を思い出し、今後とも頑張っていく活力をもらい、とても有意義な時間となりました。



## 20 東洋大学ボランティア支援室 × SON コラボ企画 東洋大学 学園祭で遊ぼう (YA プログラム) !!

開催日時	2019年11月4日 (月・祝) ※白山祭 10:00 ~ 12:00 (YA プログラム) 13:00 ~ 15:00 (フリースペース サーキット)
開催場所	東洋大学 白山キャンパス 6303教室
目的	スポーツを通じて知的障害のある人となない人が、お互いの理解を深めること
参加者数	約60名
協力	公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

### 活動内容 (概要)

東洋大学は、2018年3月6日に、わが国では初の試みとなるユニファイドスクールパートナーシップ協定を公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（以下 SON）ならびに認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・東京との間に締結しました。

ユニファイドスクールとは、幼稚園から大学までの学校と連携し、ユニファイドスポーツ®の機会を学生や学校関係者に提供することで、スポーツを通じて知的障害のある人となない人が、お互いの理解を深めること、またその結果として、共生社会の実現を促進させることを目的として立ち上げた取り組みです。東洋大学ボランティア支援室と SON は協定イベントの1つとして、学園祭で YA プログラムを実施しました。

実施に向け、関係機関にチラシを送付しましたが、当日は、障害のある子供は、恐らく参加しなかったと思われます。しかし、多くの子ども達がスペシャルオリンピックスの YA プログラム、サーキットに参加し、大盛況となりました。



# ボランティア支援室各企画資料

## ボランティア支援室からのお知らせ

ボランティア支援室では、さまざまなボランティア活動情報の発信や各種イベントを開催しています。まずはあなたの「できること」から社会貢献に関わってみませんか？各ボランティアサークルの説明やボランティア支援室の説明等ボランティアに関するガイダンスを下記の日程で行います。

- ・第1回 4/5 (金) 12:30~13:30
  - ・第2回 4/5 (金) 17:30~18:30
- 白山キャンパス5B12教室で開催いたします。



## イベントスタッフ募集

イベントごとにスタッフを募集しています。ボランティアに興味のある方は、是非この機会にイベントやイベントスタッフに参加してみませんか？

## 1Dayボランティア

複数申し込み可。  
下記以外のイベントもHP掲載予定。

ボランティア活動のはじめの一步をボランティア支援室がサポートします。スタッフ同行イベントも用意しますので是非ご参加ください!!

1. スペシャルオリンピックス (知的障害のある人たちとスポーツを通じ一緒に活動する) スタディツアー (4/21)
  2. 荒川河川敷ゴミ拾い (詳細が決まり次第HPに掲載します。)
  3. ティーキャンプ (里親家庭と大学生達のキャンプ) (5/5予定)
  4. 寺子屋子ども食堂 王子見学会 (5/9予定)
  5. ささちゃんち (子どもたちや地域の方が気軽に訪れ、つながりを生み出す場) 見学会 (詳細が決まり次第HPに掲載します。)
  6. ごもれびの森・里山支援隊 (川越キャンパスの里山保全) (4/13)
- \* イベント毎に締切りが異なりますので、下記HPで必ず確認してください。

## 2019ボランティア支援室活動予定<下記以外にも多数計画>

<被災地支援> (詳細は、随時下記HPまたは、ガクチカサブリに掲載します。)  
・各種スタディツアー他 [夏期/春期]

【2018年度 参考】

- ① (南相馬) 卒業生が現役に伝える、被災地の現状とこれから
- ② (南三陸) 被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地支援のあり方
- ③ (いわき) 福島県いわき市の漁業の現状を発信する

<防災> (詳細は、随時下記HPまたは、ガクチカサブリに掲載します。)  
・首都直下型地震に備える防災サバイバル企画他

<オリパラ> (詳細は、随時下記HPまたは、ガクチカサブリに掲載します。)  
・パラスポーツ応援ツアー  
・スペシャルオリンピックスボランティア  
・外国人おもてなし語学ボランティア育成講座他

TEL: 03-3945-7927  
FAX: 03-3945-7601  
MAIL: mlvolsup@toyo.jp

\* 開室時間やイベント等情報は  
右記URLからご覧ください。⇒



各種ボランティア情報は、ToyoNet-ACE「ガクチカサブリ」に掲載中 ⇒



## 東洋大学 ボランティア支援室

# ボランティア入門講座

## ボランティア入門講座

ボランティア活動を始めたい「はじめの一步」を応援する講座です。「ボランティアを始めてみたいけど、どうやって自分ができる活動を探したらいいの？」「ボランティア先ではどんなことに気をつけて活動したらいいの？」こうした疑問・不安を解消し、はじめの一步を踏み出してみませんか？



日時 2019年4月15日(月)  
16時30分~18時00分

会場 東洋大学白山キャンパス  
南水会館 3階 301教室

定員 40名(先着順)

お問い合わせ

東洋大学 ボランティア支援室 03-3945-7927

2019年

# ボランティア 合同説明会 in 朝霞

朝霞キャンパスで活動する  
ボランティアサークルや  
団体が  
大集合!!

4月18日(木) 12:00  
15:00

出入り自由!



○場所 講義棟1階 学生ホール

○参加団体 裏面参照

○主催 東洋大学ボランティア支援室

### 学生ボランティアセンター 朝霞でって

私たちは、復興支援や川清掃など他キャンパスと合同で行なっています。ボランティアを通じて貴重な体験や出会いが待っています。未知の扉を拓くはあなた自身。  
学ボラ代表 冷水優綺 s1a121700481@toyo.jp





### あさがお

私達は、児童館のお手伝いと自分たちが主催する子ども向けのレクリエーションをメインに行なっています。子どもとやりたいことや高齢者とやってみようなどあれば是非あさがおへ、あなたの「やりたい」を表現！  
代表 鎌倉初姫 s1A201601277@toyo.jp

### Ring (東洋大学オリバプロジェクト)

私たちは、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツを支援し、盛り上げるためにスポーツ体験イベントを企画・実施したり、スポーツボランティアや東洋大学運動部の応援ツアーを行っています。部活動やサークルに入っているのも大丈夫！  
tovoring.2020@gmail.com





### キッズプロジェクトあさか

小学生を対象としたボランティアサークルです！東洋大学と朝霞市、NPOが合同で行っています。主な活動は、子ども大学あさかの運営と夏・冬休みの学習支援です。興味があったら是非！！  
代表 鎌倉初姫 s1A111700457@toyo.jp

主催：東洋大学ボランティア支援室（白山キャンパス浦水会館1階）

TEL: 03-3945-7927 FAX: 03-3945-7601 E-mail: mlvolsup@toyo.jp  
URL: <http://www.toyo.ac.jp/social-partnership/csc/volunteer/>  
※ToyoNET-ACEで、ボランティア情報配信中！

今日の説明会で、ボランティア活動に関する一般的な相談も、専門のコーディネーターに出来ますよ(´▽`)



# スペシャルオリンピックス —ユニファイドワークショップ— スタディツアー

4月21日(日)  
10:30~12:00

締切  
4月19日(金)  
PM12:00

ユニファイドスポーツ(Unified Sports)とは、知的障害のある人となない人でチームを作り、練習や試合を行い、スポーツを通じてお互いに相手の個性を理解し合い支え合う関係を築いていく取組です。スペシャルオリンピックス国際本部が推進しているプログラムの1つで、世界中で展開されており、世界大会公式種目としても実施されています。

**場所：**国立オリンピック記念青少年総合センター  
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

**募集人員：**15名(申込多数の場合は抽選となります)

**内容：**  
10:30~11:10 ワークショップ  
スペシャルオリンピックスが取り組む共生社会に向けた活動、SO紹介動画、ユニファイドスポーツのレクチャーなど  
11:10~12:00 見学  
ユニファイドスポーツ「バスケットボール」を見学します

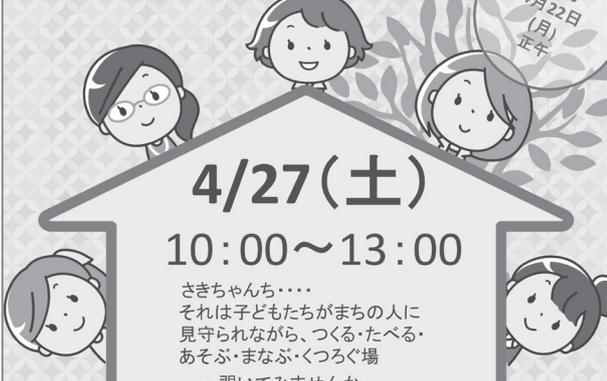
**申込フォーム**



問合せは・・・  
ボランティア支援室(エクステンション課)  
03-3945-7927 / mlvolsup@toyo.jp

## おたがいさま食堂 in さきちゃんち

ボランティア募集のお知らせ



締切  
4月22日(月)  
正午

**4/27(土)**  
**10:00~13:00**

さきちゃんち・・・  
それは子どもたちがまちの人に  
見守られながら、つくる・たべる・  
あそぶ・まなぶ・くつろぐ場  
・・・覗いてみませんか・・・

当日は、  
お昼ごはんを作って  
みんなでいただきます。

**さきちゃんちHP**

その他、ボランティアの募集予定あります  
♪高尾山ハイキング→ 6月9日(日)  
♪七夕イベント「さきちゃんちでやってみよう祭」→7月7日(日)  
※※ボランティア保険の加入が必要です。

問合せは・・・  
ボランティア支援室(エクステンション課)  
03-3945-7927 / mlvolsup@toyo.jp

**申込フォーム**



## カンボジアフェスティバル2019 ～ボランティア募集のお知らせ～

カンボジアには、アンコールワット以外にも素晴らしい芸術や文化、料理があり、美しい自然にも恵まれておりますが、過去の悲惨な歴史に焦点を当てられることが多く、輝きを取り戻しつつあるこの国の多様な表情や、日本で活動する在日カンボジア人の姿が伝えられる機会はまだまだわずかしかありません。このイベントは【日本とカンボジアをつなぐ】ことを主旨として開催されます。

主催：カンボジアフェスティバル2019実行委員会  
共催：特定非営利活動法人在日カンボジアコミュニティ (Cambodian Community in Japan)  
在日カンボジア王国大使館 (Royal Embassy of Cambodia in Japan)  
在日カンボジア留学生協会 (Cambodian Students Association in Japan)  
BMI Co., Ltd

**日時：**2019年5月3日(金・祝)8:00~19:00  
2019年5月4日(土・祝)8:00~19:00

**場所：**東京都代々木公園イベント広場+野外ステージ

**内容：**①～⑧から実行委員会で指定されます。

①会場管理  
②ステージの補助  
③出店ブースの補助  
④来場者等の安全管理  
⑤廃棄物の管理  
⑥写真/映像撮影  
⑦その他実行委員会が必要と認める事項  
⑧カンボジアフェスティバルをより盛り上げるための施策

※内容についての問合せはフェスティバル実行委員会までお願いします。  
mail: cf2019.volunteer@gmail.com  
tel:080-1263-2674 (杉山)

**申込締切  
4月12日(金)**

問合せは・・・  
ボランティア支援室(エクステンション課)  
03-3945-7927 / mlvolsup@toyo.jp

**申込フォーム**



# こもれびの森・ 里山支援隊

川越キャンパス「こもれびの森」を多様な生物が  
生きる里山の森にする活動を行っています。

**4月13日(土) 8:30-12:00**  
**8:30川越キャンパス4号館前集合**

作業内容:キノコの菌打ち、スズメバチトラップの設置、ごみ拾いなど

用意するもの:

- 1.森林内の作業に適した身支度(長袖、長ズボン、靴(長靴、安全靴、運動靴)、手袋(作業用手袋、軍手))
- 2.ベルト(手のこざりや剪定ばさみを通して身につけます)、ホイッスル(安全確認のために使用することがあります)、手ぬぐい・バンダナ(ヘルメットの下に身につけます)
- 3.タオル・マスクなど森での作業に必要なもの、飲み物(水分補給のため必ず持参のこと)
- 4.貸出できますが、あれば自前の道具(ヘルメット、手鋸、剪定ばさみなど)

申し込み(4月10日まで)・問い合わせ先  
こもれびの森・里山支援隊 代表 小瀬 博之(こせ ひろゆき)  
mlkomorebistf@toyo.jp  
(スタッフのメーリングリストとなっています。)

# こもれびの森・ 里山支援隊

川越キャンパス「こもれびの森」を多様な生物が  
棲む里山の森にする活動を行っています。

**5月11日(土)**  
**7月 6日(土) 各日 8:30-16:00**  
**8月31日(土)**  
**※8:30川越キャンパス4号館前集合**

作業内容:  
枯損木の伐採、下刈り、つる切り、希少植物の保護、ごみ拾いなど

用意するもの:

- 1.森林内の作業に適した身支度(長袖、長ズボン、靴(長靴、安全靴、運動靴))、手袋(作業用手袋、軍手)、手ぬぐい・バンダナ(ヘルメットの下に身につける)
- 2.貸出できますが、あれば自前の道具(ヘルメット、手鋸、剪定ばさみなど)、ベルト(手鋸や剪定鋏を通して身につける)、道具の手入れのための用具(ウェス、ブラシなど)
- 3.飲食物・昼食(学食・売店は夏休み中は休業)、飲み物(水分補給のため必ず持参。学内の自動販売機で購入可能。)

申し込み(各日開催1週間前まで)・問い合わせ先  
こもれびの森・里山支援隊 代表 小瀬 博之(こせ ひろゆき)  
mlkomorebistf@toyo.jp(スタッフのメーリングリスト)



## 寺子屋子ども食堂

**5月9日(木) 17:00 ~21:00**

申込締切 4月25日(木)

- ※申込多数の場合は抽選とさせていただきます。
- ※参加者には5月7日(火) 12:20-12:50に事前学習を行います。
- ※ボランティア保険の加入が必要です。

「寺子屋子ども食堂・王子」は「子ども食堂」と銘打っていますが、調理は行わず、どちらかというと学習支援活動をメインに据えて行われている活動です。

- (スケジュール)
- ・17:00-17:30 会場設営、受付準備
  - ・17:30-18:30 学習支援活動
  - ・18:30-19:00 食事の時間
  - ・19:00-19:50 学習支援活動、子どもたちとの交流など  
(前半部より、自由な交流の時間になる見込みです)
  - ・20:00-20:30 ふりかえりとわちああい  
(活動を通じて感じたことを全員でわちあいます)
  - ・20:30頃 終了

- ・その他:食事が支給されます。発注の都合上、キャンセルは5月7日(火)までに連絡をお願いします。
- ・受け入れ団体:NPO法人寺子屋子ども食堂・王子
- ※本日程以外でも通年で月曜日・木曜日の募集もあります。

問合せは...

ボランティア支援室(エクステンション課)  
03-3945-7927 / mlvolstup@toyo.jp

申込フォーム



## 緑の高尾山に行こう!

(さきちゃんち)

ボランティア募集のお知らせ

締切  
6月3日  
(月)  
正午



**6/9(日)**

**8:30~17:00**

- 集合8:30 春日駅 近辺
- 解散予定、17:00 春日駅 近辺

【内容】

高尾山口から福荷山コースで登り、下りはつり橋を渡って楽しく、疲れたらケールカーも使えます。

- ※雨天中止。さきちゃんちで遊ぼう!を開催
- ※交通費支給予定
- ※2019中央ろうきん助成プログラム事業
- ※ボランティア保険の加入が必要です。



その他、  
ボランティアの募集予定あります  
7月7日(日)  
七夕イベント「さきちゃんちでやってみよう祭」

さきちゃんちHP

申込フォーム



【主催】さきちゃんち運営委員会・なにしよっくらブ

問合せは...東洋大学ボランティア支援室(エクステンション課)  
03-3945-7927 / mlvolstup@toyo.jp



2019年  
4月の

## 東洋大学 ボランティアカフェ

IN

### ボランティア支援室ラウンジ (白山キャンパス 南水会館1階)

お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアのお話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- ・4月22日(月) 12:20～12:50「子どもに向き合う一生ものの経験を」  
ゲスト: 辻 珠美さん(特定非営利活動法人Learning for All)
- ・4月23日(火) 12:20～12:50「ワークキャンプで過ごす夏！」  
ゲスト: 長瀬 健太郎さん(NPO法人good!)

申込不要  
出入自由  
飲食自由

東洋大学ボランティア支援室アクセスマップ

ココです  
南水会館  
白山キャンパス  
東洋大8号館  
10号館  
ネットトヨタ

お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

○4月22日(月)「子どもに向き合う一生ものの経験を」  
自分で用意しなければ家で食べるものがない。中学生まで4回苗数が変わった。家で勉強すると怒られる。日本の子どもの貧困率は13.9%。約7人に1人の子どもが「相対的貧困」状態で様々な困難を抱えています。  
私たちLearning for Allでは、これまで「質の高い学習機会」を提供する学習支援拠点と、「家庭でも学校でもない第三の居場所」を提供する居場所支援拠点を展開することで、困難を抱えた子どもたちの「人生の転機」となるような支援を行ってきました。たった一人の自分の可能性を信じ、向き合ってくれる大人との出会いで、子どもの可能性が生かされ子どもたちが大きな成長を遂げる姿を見てきました。  
今回は具体的に子どもたちが直面する困難や大学生ボランティアに参加いただいているプログラムの詳細について、体験談をもとにご紹介していきます。  
※NPO法人Learning for All: <https://learningforall.or.jp/volunteer/>

4月23日(火)「ワークキャンプで過ごす夏」  
NPO法人good!は、2001年から若者のキッカケづくりを応援しつづけている団体です。これまで実施したワークキャンププログラム(宿泊型ボランティア活動)の参加者は3000人以上！  
大学生を中心に、高校生から社会人まで全国から幅広い世代の若者が参加しています。初海外でも、英語が苦手でも、経験豊富なスタッフが海外ワークキャンプに同行するので、1人でも安心して参加することができます。  
国内でも、夏は長野県の古民家で参加者みんなで寝泊りし、美しいアルプスの山々を見ながらの農業体験や、広島で平和を考える充実のワークキャンププログラムが用意されています。



2019年  
5月の

## 東洋大学 ボランティアカフェ

IN

### ボランティア支援室ラウンジ (白山キャンパス 南水会館1階)

お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアのお話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- ・5月20日(月) 12:20～12:50「主権者教育ってなあに？」  
ゲスト: 菅 将大さん  
(東洋大学、特定非営利活動法人YouthCreate代表理事)
- ・5月30日(火) 12:20～12:50「人生を180度変える出会い！」  
ゲスト: 阿久津真理恵さん(東洋大学3年、学生団体SKOW2代目代表)

申込不要  
出入自由  
飲食自由

東洋大学ボランティア支援室アクセスマップ

ココです  
南水会館  
白山キャンパス  
東洋大8号館  
10号館  
ネットトヨタ

お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

○5月20日(月)「主権者教育ってなあに？」  
NPOって何してるの？主権者教育ってなあに？自分たちはどうかかわれるの？そんなことを政治と若者をつなぐ場を作る団体であるNPO法人YouthCreateがわかりやすく説明しながら楽しく話したいと思います。  
NPO法人Youth Createは20代の投票率向上を目指して活動していた学生団体を母体として2012年に発足した団体です。学生団体時代には各政党の国会議員と20代の若者が居酒屋で懇談するイベントや、選挙前に街頭で投票を呼びかける活動を行っていました。NPO法人化後も、学校への出前授業や、議員との懇談の場などをつくるなど、積極的に活動しています。18歳選挙権が導入され、いままですべての大学生にとって、選挙は関係のあることになりましたが、どこに投票したらよいか分からない？そんなお悩みの方にとってヒントが見つかるかもしれません！  
政治のことわからなくても大丈夫！気軽にいらしてください！  
※NPO法人Youth Create: <http://youth-create.jp/>

○5月30日(木)「人生を180度変える出会い！」  
3万人。  
一生のうち出会う人の数。70億分のたった3万人。1年で375人。この数字を多いと思う人もいるし、少ないと思う人もいます。ただ、変わらないのは、いつも出会いが人をかけるということです。とても些細なきっかけが人の人生を180度変えてしまします。  
SKOWは1年間で2000人以上の人と出会い、様々な価値観を得ることができる異文化交流イベントを催しています。学校、年齢、国籍、性別問わず、様々なバックグラウンドを持つ人と出会い話すからこそ視野を広げることができ、未来図を描ききっかけになると考えています。  
今回はこの団体を運営しているスタッフの思いと成長、さらにこのイベントの詳細について体験談を元にご紹介します！  
※学生団体SKOW: <https://skow.jp/>



2019年  
6月の

## 東洋大学 ボランティアカフェ

IN

ボランティア支援室ラウンジ  
(白山キャンパス 南水会館1階)

### お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアの お話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動  
をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場  
です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- ・6月11日(火) 12:20~12:50  
「あなたを、“おかえり”で待ってます~大槌プロジェクト~」  
ゲスト: 勝俣 早紀さん (東洋大学、学生団体大槌プロジェクト)

申込不要  
出入自由  
飲食自由



お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

○6月11日(火) 12:20~12:50  
「あなたを、“おかえり”で待ってます  
~大槌プロジェクト~」

大槌プロジェクトは岩手県にある小さな町、大槌町を舞台に活動しています。  
大槌町は8年前に被災した町でもあります。しかし、そこに生きる人たちは強く  
て、美しく、あったかい。そのあったかさは私たちに第2の家族の存在を感じ  
させてくれます。

そんな地域の方たちと学生を心のふるさとツアーと名付けて繋げ、私たちも含  
めみんなが笑顔になる関係づくりをしています。



お茶やお菓子とボランティアの話を通じた語らいの場

## 東洋大学 ボランティアカフェ

IN

ボランティア支援室ラウンジ  
(白山キャンパス 南水会館1階)

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動  
をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場  
です。申込不要、飲食自由です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- ・6月25日(火) 12:20~12:50  
「今からでも間に合う！今年の夏、国際ボランティアのススメ！」  
ゲスト: 井口 育紀さん  
(NPO法人NICE日本国際ワークキャンプセンター事務局長、東洋大学OB)

世界90カ国以上で国際ワークキャンププログラムを展開するNICE。ワークキャンプは、宿  
泊型を伴うボランティア活動の形態で、新しい「旅」のスタイルとしても注目されていま  
す！短期から長期まで、海外はもちろん国内でも「国際」ボランティアが出来る！豊富な  
プログラムが待っています！  
東洋大OBの井口さんを迎え、ご自身の経験談も交えてこの夏の過ごし方をご提案いた  
だきます！



お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

お茶やお菓子とボランティアの話を通じた語らいの場

## 東洋大学 ボランティアカフェ

IN

ボランティア支援室ラウンジ  
(白山キャンパス 南水会館1階)

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動  
をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場  
です。申込不要、飲食自由です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- ・7月1日(月) 12:20~12:50  
「自然のミライ、考えませんか？ボランティアで社会課題を解決！」  
ゲスト: 島田 ゆり子さん (明治大学、生物多様性わかものネットワーク)

このままでは、今までにない大量絶滅の時代がきてしまう...?  
より良い自然を残すため、“わかもの”がボランティアで活動している“生物多  
様性わかものネットワーク”  
セイブツタウセイって？なんで守らなきゃいけないの？といった疑問から、  
実際の活動の紹介を踏まえ、社会課題を解決する活動の魅力をお伝えします。



お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

東洋大学 ボランティアカフェ

**「台風19号  
災害ボランティアに行く前に！」**  
-防災のプロが語る、安全に活動するためのポイント-

緊急開催

開催日時: 10月31日(木) 12:20~12:50  
会場: ボランティア支援室

ゲスト講師: 宮崎 賢哉さん  
(災害救援ボランティア推進委員会、防災教育コンサルタント)

今回のボラカフェは、台風19号災害ボランティア活動や、知人宅などが被災しそこを救援に行こうと考えている人に向けてのポイントを、災害ボランティアのスペシャリストがお話します！  
思いを行動に変えるために、安全に活動するために役立つ情報満載です！




お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

※ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です。申込不要、飲食自由です。どなたでもお気軽にご参加ください。

お茶やお菓子とボランティアの話を通じた語らいの場

東洋大学  
ボランティアカフェ

IN ボランティア支援室ラウンジ  
(白山キャンパス 雨水会館1階)

11月28日(木) 12:30~14:30 (入退場自由、昼食持ち込み可)  
「一步踏み出した、その先に広がるセカイワークキャンプに行きました!」  
ゲスト: NPO法人good! 2019年夏のワークキャンプ参加者の皆さん

- ・大学生活、何かをしたいけど、何をしたらいいのかわからない。
- ・毎日の生活から、ちょっとだけ抜け出してみたい。
- ・自分の視野や考え方を広げたい。
- ・大学以外のいろいろな人たちと出会ってみたい。

今回は、モンゴル・タイ・韓国・静岡の牧場での活動の様子を報告します！  
good!のワークキャンプは、ボランティアが初めて、海外が初めて、英語が話せない人も大丈夫！まだ見ぬ世界へ一步踏み出してみませんか？




お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

お茶やお菓子とボランティアの話を通じた語らいの場

東洋大学  
ボランティアカフェ

IN ボランティア支援室ラウンジ  
(白山キャンパス 雨水会館1階)

12月12日(木) 12:30~14:30 (入退場自由、昼食持ち込み可)  
「東洋大学とSDGs~身近なことを“自分ごと”に」  
ゲスト: 東洋大学 Team Value Creationの皆さん

Team Value Creationは、さまざまな社会問題について考え、調査し、発信する活動を行っている東洋大学のサークルです。  
今年の6月に3800人に対しSDGsアンケートを実施し、白山祭でも展示をさせていただきました。

大学生だからこそ知ってほしい!!  
「SDGsってなに?」という人も、「SDGs、聞いたことはあるけれどよくわからない」という人も、「すでに実践している!」という人も、全員集合!




お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

デイキャンプで遊ぼう会

ゴールデンウィーク企画 初めてのボランティア体験  
里親家庭とのデイキャンプ(教員引率有)



里親家庭には、多くの場合、里子以外には青年期の家族がいることはありません。また地域の活動などに参加していないため、子育て中の家族などとの交流の機会が少ないのです。そのような中で、一緒に遊んでくれる大学生との出会いはとても貴重です。

そこで、この里親家庭と大学生達のデイキャンプを実施します!!  
屋外のキャンプ場で、子どもたちとあそび、一緒に飯盒炊爨や、カレー作りをします。

この活動自体は、児童福祉を学んでいる学生達を中心に、続けられているものです。今年度より、この活動に一般の学生も参加が可能となりました。ただし、参加を希望する学生には、里親子の置かれている状況を理解するための事前学習を必ず受講いただきます。

日 時: 2019年5月5日(日) 11時~14時 小雨決行  
場 所: 〒274-0082 千葉県船橋市大神保町594 船橋市立青少年第2キャンプ場  
集合場所: 東洋大学 白山キャンパス6号館 西門前 バスで現地まで行きます。  
集合時間: 7時30分  
参加費: 無料(ただし活動参加前に各自ボランティア保険に加入してください。)  
参加者: 千葉県里親会の会員と関係者、東洋大学社会学部 森田明美ゼミの学生3・4年生約30名、本学学生、一般市民  
引 率: 社会学部社会学科 森田明美教授、森田研究室TA  
申し込み: 本学学生は右のQRコードを読み込み、HPのフォームより申し込みください。  
締め切り: 2019年4月22日(月) 正午 ※4月23日(火)に参加の可否メールをお送りします。  
定 員: 約20人(定員を超過した場合、選考あり)  
事前学習: 4月24日(水) 12:20~12:50(参加必須) 6409番教室



問い合わせ: 東洋大学 ボランティア支援室  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1F  
電話: 03-3945-7460 メールアドレス: mlxext@toyo.jp  
主催: 学生課外活動育成会、東洋大学ボランティア支援室  
共催: 千葉県里親家庭支援センター  
後援: 特定非営利活動法人こども福祉研究所

## 学生課外活動育成会企画 福島県いわき市の農業の現状を発信する

福島県いわき市で、特に原発事故の影響が大きい農業関係者を応援することを目的としています。いわき市の農業の新しい試みとして行われている『コットン』『オリーブ』畑で作業を体験し、これらの『試み』を広く発信するため加工品販売までを行います。

- 8月8日(木) (午前)東京駅出発  
(午後)いわき市内オリーブ畑で農作業  
(夜) NPOいわきわが「アゼリア」代表  
松崎氏による講演
- 8月9日(金) (午前)廃炉資料館見学  
(午後)コットン畑で農作業  
(夜) まとめ
- 8月10日(土) (午前)コットン畑で農作業  
(午後)いわき市出発、東京駅到着
- 9月7日(土)・8日(日) 加工品の販売  
(群馬県館林市『アゼリアモール』を予定)

参加申込 (※定員23名。学部生だけの参加となります。)  
締切: 7月20日(土)までに専用フォームより申込んでください。  
※事前学習を行います。(日時: 7月31日(水)16:30 場所: ボランティア支援室)  
費用: 5,200円 (期間中の食費、当日集金します)  
別途、自宅から集合場所、館林モールまでの交通費



## 福島県いわき市の農業の現状を発信する販売会

国際学部国際地域学科1年 楠田恵美系  
国際学部国際地域学科 教授 子島蓮

販売日時: 9月7日(土)、午前11時ごろから販売開始、午後7時ごろ終了。8日(日)は午前9時半から午後5時ごろまで。  
会場: 群馬県館林市 アゼリアモール1階 いこいの広場  
販売: いわき産オリーブならびにコットンの加工品を販売。あわせて、バングラデシュ・ネパールのフェアトレード商品(シヤプラニール=市民による海外協力会より)と、シリア難民の女性たちが作った手工芸品等(Syrian Handsより)も販売します。  
主催: 東洋大学 学生有志



## 2019年度 学生課外活動育成会企画 福島県の子どもに寄り添うプログラム



■活動目的、内容【2泊3日】  
被災地の母子家庭の子どもと交流することで、復興・創生の現状と向き合い、本学学生としてできる事は何かを学ぶ。被災した方々と関わり、現地を知るだけでなく、子どもと遊び、学び、農業体験もできる盛りだくさんな企画ですので、是非ご参加ください!!

8月 20日(火)	■集合: 新宿センタービル正面玄関前の歩道、am7:30集合、am8:00出発 ■郡山市青少年会館にて、子どもとの交流、学習支援(夏休みの宿題等の手伝い)、レクリエーション(子供達との遊び)
21日(水)	・猪苗代湖畔で畑共同作業(じゃが芋掘り、トマト収穫)と学習支援 ・昼食は、現地ボランティアの厚意によりご提供いただく
22日(木)	・南相馬市職員から現状説明や、小高交流センターで食事をしながら被災地の学習 ■解散: 新宿駅西口にて、pm6:00到着予定

■募集内容

対象	本学学部生 ※院生等は申込できません
定員	30名 ※定員を越えた場合、「応募理由」を確認のうえ、抽選します。
参加費	3,240円【厳守】 ※宿泊所の食費(1日目夜、2日目朝食、3日目朝食)として、当日、現金にて集金します。 キャンセルに関して、7月31日(水)までの連絡であれば、集金しませんが、8月1日(木)以降の場合、参加費を後日集金しますので、充分ご注意ください。 ※バス代、宿泊代は厚生会費より支出します。 ※3日目の昼食は、小高交流センターでとるため、当日別途集金します。
持ち物	「参加費と3日目の昼食代」、「農作業用(2日目)の衣服や靴等」※軍手のみ大学で用意。 例:「汚れても良い服」、「長靴(汚れても良い靴も可)」、「帽子」などは、各自用意
申込	7月12日(金)14:00【厳守】迄に、 respon(出席管理アプリ)の受付番号【444 816 676】より、申込ください。

■申込後の主な流れ(予定)

7月 19日(金)	この期日迄に、落選者に対し、ToyoNetメールで通知します。
24日(水)	事前学習会(顔合わせ会)を、12:20~12:50に白山キャンパス第2会議室(8号館中2階)で実施します。 白山キャンパス以外の学生は、修学キャンパスのWeb会議システムを利用しますので、朝靨は第3会議室(大学院・研究棟 2階)、川越は第3会議室(4号館4階)、飯倉は小会議室(1号館3階)、赤羽台は事務課興業会議室(1階)に集合してください。
31日(水)	キャンセル申請期限 ※翌日以降は、後日、参加費を徴収します。
8月6日(火)~14日(水)	事務局一斉休暇(電話、メール等での対応はできません)

主催: 東洋大学ボランティア支援室  
(白山キャンパス雨水会館1階)  
TEL: 03-3945-7927 mail: mlvlsup@toyo.jp

TOYO Volunteering Week

東洋大学ボランティアウィーク2019  
~人権とボランティアについて考えよう~

東洋大学学生課外活動育成会  
東洋大生の知らない  
LGBTの世界  
~ユニバーサルマナー講演~

皆さんはLGBTの存在が馴染み思っていますか?  
最近の統計調査では、国内のLGBT人口は800万人という結果が発表されていて、割合にして13.9人に1人です。  
日本ユニバーサルマナー協会協力のもと、ユニバーサルデザインの観点から見たLGBTについて学べる講演です。

2019年11月30日(土)  
時間: 13:00~15:30

会場: 東洋大学白山キャンパス  
(教室は申込者に追って連絡)

対象: 東洋大学生(学部生のみ)  
参加費: 無料  
主催: バリアフリーサークル歩み  
東洋大学ボランティア支援室  
協力: 株式会社ミライロ

【申込方法】  
右のQRコードより  
申込フォームに  
入力してください。  
【申込期間】  
2019年11月29日(金)まで

■講義  
LGBTの基礎知識や配慮すべきポイント、向き合い方などを学ぼう!

【講師】  
田崎 恭平さん  
株式会社ミライロ所属  
LGBT当事者(男性同性愛者)

■グループワーク  
いくつかのケースを例に、自分ならどうするかを考えてみよう!

東洋大学 ボランティア支援室  
TEL: 03-3945-7927  
MAIL: mlvlsup@toyo.jp

東洋大学課外活動育成会

## 予測できない大地震、 あなたはどうか備える？

～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サイバール体験2019～

およそ100年周期でマグニチュード7クラスの地震が首都圏で発生すると言われている「首都直下型地震」は、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると懸念されています。そんな時、大学は、学生は、どのようなことを想定して動くべきなのでしょう？ 今回の体験型プログラムは、実際に大規模地震が発生し、交通機関が突然ストップしたという状況を想定して、実際の現場でどのように行動するか、その時に向けてどのような備えをするべきかということについて体験しながら学ぶプログラムです。

**11/30 (土)**  
18:00～

**1日目**

18:00-19:00 オリエンテーション  
19:00-20:30 フィールドワーク  
※災害時対応を学ぶ  
20:30-22:00 体験プログラム  
※夕食づくり(防災食の準備) 簡易トイレづくり

**12/1 (日)**  
～12:30

**2日目**

7:30-9:00 体験プログラム  
※朝食づくり、撤収  
9:00-11:00 ワークショップ ※避難所運営ゲームHUG等  
11:15-12:30 ワークショップ ※ふりかえり

**参加費**  
**無料**

**定員**  
**30名**  
申込多数の場合  
抽選

対象：学部生のみ  
大学院生、准学生の方は  
お申込みいただけません。

**申込方法**

申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。  
申込期間：2019年11月13日(水)～11月27日(水)  
※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否については、11月28日(木)に申込時に登録したメールアドレスにお送りします。

お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室  
TEL：03-3945-7927  
MAIL：mlvolsup@toyo.jp

TOYO UNIVERSITY

## 被災地出身の大学生と 東洋大生が取り組む 被災地支援のあり方南三陸

日程：2020年2月14日(金)～16日(日)

「震災当時を知る」



語り部や現地の方々との交流を通じて当時の様子を教えてください

「今を体験する」



伝統文化、第一次産業の体験を通じて南三陸の今を体感します

「今後を考える」



復興について学んだ上で私たちに何ができるかを考えます

※本ツアーは、復興を考える「Project M」に取り組む南三陸出身の方に参加していただきます。東日本大震災を語り継ぐ活動と、若い世代が社会の中で地域交流を実践する活動というプロジェクトです。

①南三陸に関する説明会 2019年12月19日(木)お昼休みと五限 1604教室  
→都合が悪い方はボランティア支援室までお問い合わせください

②事前顔合わせ 2020年2月4日(火) ※南三陸研修プログラムに参加する方は原則ご参加ください

③南三陸研修プログラム 2020年2月14日(金)～2020年2月16日(日)

参加費：5,000円(宿に支払う食事代やプログラム内の軽食代)  
→事前顔合わせまたは現地徴収  
※バスの移動費、宿泊費は育成会費より支出されます  
※その他の軽食代等参加費以外は自己負担となります

主なプログラム  
※1日目 新宿西口出発  
ワークショップ 事前研修  
※2日目 一次産業体験、被災地見学  
※3日目 振り返りワークショップ  
新宿西口到着

定員：20名(申込み者多数の場合、選考となります)学部生のみ  
申込方法：下記QRコードやURLからアンケートにお答えの上、申込みください  
申込期間：2019年12月23日(月)から2020年1月23日(木)まで  
主催：東洋大学ボランティア支援室 協力：Project M  
東洋大学学生課外活動育成会

〈お申し込み〉  
URL：<https://www.toyo.ac.jp/ja-jp/sitecore/content/Toyo/forms/extension/projectm2019>

〈お問い合わせ〉  
お問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室  
TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp

## 東洋大学学生課外活動育成会

# 福島県いわき市の漁業 の現状を発信する

1泊2日のバス研修プログラム

注)漁船には乗船しません

福島県いわき市の漁業は、原発事故の影響で未だ本格的な再開には至っていません。しかし、試験操業の対象魚種も2018年段階で182種にまで拡大するなど、少しずつ展望が開ける状況になってきています。漁業の現場を訪れ、関係者からお話を伺ううえで、SNS等を使って発信し、福島漁業への支援をおこないませんか？ 事前学習および事後学習も行ないますので、併せて出席してください。  
※昨年度とほぼ同内容の企画になります。

**2020年 3/1 (日)**  
1日目

08:15 白山キャンパス出発  
12:00 いわき市到着。ガイドと合流し「漁場から」の見学および軽食  
15:00 双葉郡新井町(旧新田町)。2017年、避難指示解除  
「漁師資料館」「さくらモールとのお話」見学  
17:00 いわき市漁業、古瀬産魚種  
18:00 避難後の大田産で、講師とともにワークショップ+夕食  
21:00 解散

**参加費** ¥4,000程度

バス移動交通費、1泊軽食代は育成会費より支出されますので無料です。その他の費用(夕食・軽食代等)は自己負担となります。当日現金で回収します。

**定員** 45名(学部生のみ)

**事前学習** 2020年 1月28日(火) 13:00～14:30  
必ず出席してください。欠席者には課題を提出いただきます。

**申込方法**

申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。  
申込期間：2019年12月2日(月)～2020年1月20日(月)  
※申込み者多数の場合、参加費抽選による選考があります。参加可否については、1月25日(土)までに申込時に登録したメールアドレスにお送りします。

お問い合わせ先：〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階 TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp

## 外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座

### ～おもてなしの心を学ぶ人気講座を 本学学生対象に開講します～

東京都と共催で本学学生対象に下記の講座を実施します。東京都で実施している一般向けの同講座は倍率が非常に高く、中々受講できない大人気講座です。語学が不得意でも受講可能ですので、興味がある学生さんは、是非参加してみてください。【参加費無料】

「外国人おもてなし語学ボランティア」とは？

街中で困っている外国人を見かけた際などに簡単な外国語で積極的に声をかけ、道案内等の手助けをしていただくボランティアです。決まった日時・場所で活動するボランティアではなく、日常生活の中で自主的に活動するものです。  
※2020年の大会期間中に競技会場等で活動するボランティアとは異なります。

外国人に対するおもてなしの心をグループワーク等を通じて学ぶことにより、相手の立場に立つて思考する意識が芽生え、協調性やコミュニケーションスキルの向上が図れます。また、ボランティアアミンドの醸成が図られ、ボランティア活動への参加意欲の喚起にも繋がります。

日時：2019年6月15日(土) 13:00～16:30 (3時間30分×1回)  
場所：東洋大学白山キャンパス \*教室については後日お知らせします。  
定員：60名(定員を超えた場合、抽選となります)  
料金：無料  
申し込み締切：5月31日(金) 厳守  
※受講可否のご連絡は6月3日(月)にメールにてお知らせします。

お申込方法 (下記URLまたは右のQRコードからアクセスしてください。)  
<https://www.toyo.ac.jp/events/social-partnership/csc/volunteer/omotenashi/>

ボランティア支援室  
各企画資料



## 「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座

### ◆カリキュラム

相手の立場に立って一人ひとりが「おもてなしとは何か」を考え、実践する講座です。グループワークを通じて思いやりの心、積極性と協調性の向上を図ります。(講座内では英語を使用する場面もありますが、英語力の向上を目的とした講座ではありません。)

講座名	時間・回数	内容
おもてなし講座	3時間30分×1回	簡単な英語を使った外国人とのコミュニケーションに関する基礎知識や、外国人に対する「おもてなし」の心を身に付けるため、おもてなしや異文化コミュニケーションについて映像やグループワークを通して学習します。

### 講座への参加条件

- ◆ 本学学生の方（白山キャンパスの学部生、大学院生のみ）
- ◆ 本ボランティアの趣旨を理解し、日常生活の中で積極的に活動する意欲があること
- ◆ 講座中のグループワークやロールプレイングに、協調性を持って積極的に参加できること
- ◆ 東京都や一部区市町村等において、同内容の講座を実施しています。本講座の受講は、それらを含め一人一回限りです。
- ◆ これまで本講座を受講した方の受講はご遠慮ください。

### ◆ 講座修了者について

- ・ 講座を修了された方は、東京都の「外国人おもてなし語学ボランティア」として登録させていただきます。
  - ・ 講座修了時に、お一人おひとりに登録証とバッジをお渡しいたします。
  - ・ 修了者には、東京都からイベント案内等を行う予定です。
- ※登録に際し、修了者の個人情報（氏名、性別、年齢、住所、メールアドレス等）を東京都にご提供いただきます。ご了承ください。本講座の受講は出来ません。



＜お申込・お問合せ＞  
東洋大学社会貢献センター(エクステンション課)  
TEL.03-3945-7460



## 2019 SUMMER

# 夏のボランティア相談会 OPEN!

6/24(月)～7/4(木)

期間中の月～第3日

12:00～18:00

この夏、皆さんは何をして過ごしますか？  
学生の今だからこそ出来る活動をしたいと考えている学生の皆さんに、夏のボランティア活動の相談会を開催します！  
本学のボランティアコーディネーターが、夏に募集をしているボランティア情報を集めてお待ちしております。

会場：南水会館 1階  
ボランティア支援室内



期間中にはボラカフェ等のイベントを実施する予定です。  
※詳細はボランティア支援室にご確認ください！

東洋大学ボランティア支援室主催  
夏休みボランティア 第1弾

## 『宿題サポート ～みんなでたくさん学び、遊び、話そう！～』

～～～ボランティア募集のお知らせ～～～

期間：8月6日(火)・7日(水) 10時～16時  
場所：埼玉県飯能市山手町19-4 飯能市子育て総合センター

申込方法：  
ボランティア支援室ホームページより専用申込フォームにて申し込んで下さい。(7月10日(水)17時締切)

参加の可否については参加者確定後メールにてお知らせします。  
募集人数：  
各日とも5名から10名  
先着順に受け付けますが、子どもたちの参加希望数によって募集人数も変わります。

事前説明会：  
確定者は、以下いずれかの事前説明に参加してください。  
(確定の連絡時に詳細をお知らせします)  
・7/24(水)17:00～17:40  
・7/26(金)12:15～12:55

小学4年生～6年生を対象に夏休みの宿題をサポート、宿題が終わったら近くの公園にみんなでお遊びに出かけます。今年で6年目を迎えるプログラムです。



申込フォーム



問合せは・・・東洋大学ボランティア支援室(エクステンション課)  
担当：林 03-3945-7927 / mlvolsup@toyo.jp

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の競技場などを巡る



## Venue Tour

2019年8月10日(土)  
9時45分 大江戸線勝どき駅集合

オリンピック・パラリンピックの競技場・関連施設をめぐるツアーです。クリーン活動も実施予定です。大会を一年後にひかえ、国内外からの選手や観客を迎えるために、各施設と、そのロケーションを知ることは欠かすことができません。ぜひ参加してください。

参加費：無料(ツアー中の交通費、昼食代などは各自負担となります)  
・持ち物：筆記用具、タオル、飲み物、帽子、暑さ対策グッズ、お弁当または昼食代

ルート：

勝どき駅(集合)⇒トリトンスクエアオフィスタワー(組織委員)⇒選手村⇒  
⇒有明体操競技場、有明アリーナ、有明アーバンスポーツパーク⇒有明テニスの森⇒  
⇒国際放送センター、メインプレスセンター⇒夢の島公園アーチェリー場⇒  
⇒東京辰巳国際水泳場⇒東京アクアティクスセンター(15時頃解散)  
途中、日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターにてランチと見学！  
※ナビゲーター：中島 誠之さん(日本赤十字社東京都支部設立準備団体「スポーツボランティア奉仕団」委員長、長野オリンピックボランティアリーダー)

申込はこちらから\*  
※申込者多数の場合、抽選を行うことがあります。



問合せはボランティア支援室(エクステンション課)  
担当：日比野  
03-3945-7927 / mlvolsup@toyo.jp

申込締切  
7月10日(水)

<p><b>講演会</b></p> <p>東洋大生の知らない LGBTの世界</p> <p>日時：11月30日(土) 13:00~15:30 会場：白山キャンパス 1502教室</p>	<p><b>映画上映</b></p> <p>『ポパティ・インク』</p> <p>日時：12月3日(火) 12:40~14:30 会場：白山キャンパス 6213教室</p>	<p><b>講演会</b></p> <p>「学校の中の人権問題 〜“ブラック校則”を考える」</p> <p>日時：12月3日(火) 16:20~17:50 会場：朝霞キャンパス 講306</p>
<p><b>講演会</b></p> <p>「SO×東洋大学 『ユニファイドスポーツ』を 知っていますか?」</p> <p>日時：12月5日(木) 13:00~14:30 会場：白山キャンパス 井上円了ホール</p>	<p><b>講演会</b></p> <p>CSR論/環境コミュニケーション論 「企業と人権」</p> <p>日時：12月10日(火) 9:00~10:30 会場：川越キャンパス 512教室</p>	<p><b>映画上映</b></p> <p>『さとにきたらええやん』</p> <p>日時：12月10日(火) 10:45~12:25 会場：朝霞キャンパス 314教室</p>
<p><b>講演会</b></p> <p>「貧困と社会的排除 /貧困論」</p> <p>日時：12月10日(火) 16:30~18:00 会場：白山キャンパス 6101教室</p>	<p><b>講演会</b></p> <p>「医療を受ける権利」</p> <p>日時：12月13日(金) 15:00~16:30 会場：板倉キャンパス 1101教室</p>	<p><b>講演会</b></p> <p>東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「世界がもし 100人の村だったら」</p> <p>日時：12月13日(金) 16:30~18:00 会場：白山キャンパス A101教室</p>

東洋大学ボランティア支援室  
2019年 東洋大学・ボランティアWEEK  
~人権とボランティアについて考えよう~  
**2019.12.1~12.14**

後援：法務省・東京法務局  
公益財団法人人権教育啓蒙推進センター（申請中）

東洋大学ボランティアウィーク2019  
~人権とボランティアについて考えよう~

特別活動と総合的な学習の時間の指導法  
公開講義『学校の中の人権問題〜“ブラック校則”を考える』

講師：須永 祐慈 氏  
「ブラック校則をなくそう！プロジェクト」発起人  
(NPO法人ストップいじめ！ナビ 副代表)

学校の外から見れば首をひねるような、不合理な学校現場のルール(校則)、生徒心得等が、いまだに学校現場に残っています。時には“指導”の名のもとで多くの生徒が心身の苦痛を被る事例が後を絶ちません。学校の主人公である児童・生徒の人権が保障されるためには、どのような学校が求められるのか。ゲストと共に考えます。

日時:12月3日(火) 5限(16:20-17:50)  
場所:朝霞キャンパス講義棟 講306教室  
※申し込みは不要です。直接、会場にお越しください。  
開始後の入場・途中での退場はできません。

問合せ先:ボランティア支援室  
Tel 03(3945)7927  
E-Mail mlvsup@toyo.jp

ボランティア支援室  
各企画資料

東洋大学ボランティアウィーク2019 ~人権とボランティアについて考えよう~

申し込み不要

「ポパティ・インク」上映会  
あなたの寄付の不都合な真実

あなたの「善意」が、誰かを傷つけているかもしれない。「貧しい気の毒な人たちのために手を差し伸べよう」「彼らは無力で何もできない」そんなイメージを隠い繰り広げられてきた途上国開発は、今や巨大産業となっている。私たちの「支援」がもたらす問題は？正しい支援のあり方とは？途上国とどう向き合っていくのか？“支援される側”の人たちの生の声を伝えるドキュメンタリー。

日時：12月3日(火) 12:40~14:30  
受付開始12:30~  
場所：東洋大学白山キャンパス6213

東洋大学ボランティア支援室 イベントサポートスタッフ

東洋大学ボランティアウィーク2019 ~人権とボランティアについて考えよう~

障害者週間シンポジウム  
「ユニファイドスポーツ」を知っていますか?

~その魅力と意義、“For”から“With”へ~

2019年12月5日(木)  
13:00~14:30 (開場 12:30)  
会場：東洋大学 白山キャンパス井上円了ホール  
定員：500名

入場無料 ※要事前申込

登壇者  
有森 裕子 氏 / 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 理事長  
竹村 俊男 / 東洋大学 学長  
志村 健一 / 東洋大学 社会学部教授  
高山 直樹 / 東洋大学 社会学部教授、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本理事

申込方法  
12月2日(月) 迄に、以下にて申込ください。定員に達し次第、締め切ります。  
respon (出席管理アプリ)の受付番号(987 648 647)より、申込ください。但し、授業履修の指示があった方は、申込は不要です。  
上記の方(浪りの方、浪留生)は、本学社会福祉センターのホームページより申込ください。申込できない場合は、「障害者・聴覚障害者・盲者・低視覚者」を明記のうえ、エクスプレス予約(FAX:03-3945-7601)又は郵便はがきで申込ください。なお、FAX又は郵便はがきの場合は、「受付完了」の通知はいたしません。

注意事項  
当日は、公共交通機関をご利用ください。本学の駐車場や駐輪場はご利用できませんので、お車・バイク・自転車での来校はご遠慮ください。

お問合せ：東洋大学 エクスプレッション課 TEL：03-3945-7635  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

東洋大学 TOYO UNIVERSITY  
Special Olympics Unified Schools



東洋大学ボランティアウィーク2019  
～人権とボランティアについて考えよう～

貧困と社会的排除/貧困論  
公開講義のおしらせ

様々な原因で、生活に困窮し家を失った方がたをサポートする支援団体、TENOHASI。支援活動では、孤立無援状態になっている方々に出会い、話し、一緒に考え、試行錯誤しながら、安心できるつながりとホームを取り戻すお手伝いをされています。

事務局長の清野さんをゲストに、「だれもが安心して地域で生活を送ることが出来る社会」を目指す上で、日本にはどのような課題があるのか、具体的に学びます。



講師: 清野賢司 氏  
(特定非営利活動法人TENOHASI事務局長)

日時: 12月10日(火) 5限(16:30-18:00)  
場所: 白山キャンパス6号館 6101教室  
※申し込みは不要です。直接、会場にお越しください。

問合せ先: ボランティア支援室  
Tel 03(3945)7927  
E-Mail mlvolsup@toyo.jp

東洋大学ボランティアウィーク2019  
～人権とボランティアについて考えよう～

現代生物学公開講義『医療を受ける権利』

～小児心臓移植問題から考える～

講師: 町野 朔 氏(上智大学名誉教授)

～創薬研究の現場から～

講師: 鈴木 聡 氏(HAB研究機構)

12月4日(水)～10日(火)は世界人権週間です。  
人権は、人種や民族、性別を超えて、すべての人が、生まれながらにして持っている『人間が人間らしく幸せに生きるための基本的な権利』です。  
2015年9月の国連サミットで採択された国際目標としてのSDGs(持続可能な開発目標)も、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを指す、普遍的な17の行動を呼びかけています。その中で『健康的な生活を確保し、福祉を推進する』ことも目標の一つとなっています。目標達成には、『医療を完全に普及させ、すべての人が安全で効果的な医薬品とワクチンを利用できるようにすること』が不可欠な要素とされています。  
一方で、医療の進歩の面からは、臓器提供や臨床研究、インフォームドコンセント等、医療をとりまく人権に関する課題も数多くあります。  
今回はこれらを踏まえて、外部から講師をお招きし、それぞれの立場から講演していただきます。

日時: 12月13日(金) 4限(15:00-16:30)  
場所: 板倉キャンパス1号館 1101教室  
※申し込みは不要です。直接、会場にお越しください。

問合せ先: ボランティア支援室  
Tel 03(3945)7927  
E-Mail mlvolsup@toyo.jp

東洋大学ボランティアウィーク2019

東洋大生がワークショップで考えるSDGs  
「世界がもし100人の村だったら」

12月13日(金) 5限(16:30～18:00)  
A101番教室(白山10号館1F)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。「leave no one behind」(地球上の誰一人として取り残さない)ことを誓っていますが、私たちの生活にどのように関係するのでしょうか。  
ファシリテーターの八木さんとともに、ワークショップ(参加型学習)を通して、手軽に楽しく深めます。

「SDGsってよく分からないけど、気になる」そんな方、歓迎します!



ファシリテーター  
八木 亜紀子さん(認定NPO法人開発教育協会(DEAR) 事業主任)  
静岡県出身。大学時代に国際ワークキャンプに参加したことをきっかけに、ボランティアや市民活動の世界へ。国際協力NGOや中間支援組織を経て、2007年よりDEARの職員となる。広報や教材作成、ワークショップのファシリテーターなどを務めている。2017年度よりアジア太平洋資料センター(PARC) 理事。

申込方法: 右記のQRコードよりお申込ください。



東洋大学 ボランティア支援室  
TEL: 03-3945-7927  
MAIL: mlvolsup@toyo.jp

申込期限: 11月30日まで

定員: 30名(お申し込み多数の場合は抽選させていただきます)

東洋大学ボランティア支援室×SONコラボ企画  
～東洋大学 学園祭で遊ぼう(YAプログラム)!!～



東洋大学は、2018年3月6日に、わが国では初の試みとなるユニファイドスクールパートナーシップ協定を公益財団法人スペシャルオリンピックス日本(以下SON)ならびに認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京との間に締結しました。

ユニファイドスクールとは、幼稚園から大学までの学校と連携し、ユニファイドスポーツ®の機会を学生や学校関係者に提供することで、スポーツを通して知的障害のある人とない人が、お互いの理解を深めること、またその結果として、共生社会の実現を促進させることを目的として立ち上げた取り組みです。

東洋大学ボランティア支援室とSONは協定イベントの1つとして、学園祭でYAプログラムを実施します。障害のあるなしに係らず、楽しむことができます。是非、お越しください。

YA(ヤングアスリート)プログラムとは

2歳から7歳の幼児期の子どもの発達を対象にしたスポーツと遊びを融合させたユニークな活動です。(下記 サークットイメージ図)



【申込期間】  
2019年9月26日(木)～10月18日(金)

【申込方法】  
メールで下記の申込内容をお知らせください。

【申込内容】  
・保護者氏名(当日ご同席いただける方)  
・保護者連絡先: メールアドレス  
・保護者連絡先: 電話番号  
・参加されるお子様のご年齢

【申込先メールアドレス】  
mlvolsup@toyo.jp

※お申込メールのタイトルは「YAプログラム参加希望」としてください。

申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。ご参加いただける方には10月21日(月)にお申込時にいただいたメールアドレス宛にお知らせいたします。

【実施内容】

日程: 2019年11月4日(月・祝) ※白山祭  
時間: 10:00～12:00 (YAプログラム)  
13:00～15:00 (フリースペースサーキット)  
場所: 東洋大学6303教室  
(東洋大学白山キャンパス6号館3階)  
定員: 10名程度(YAプログラム) サークットは定員なし

・準備体操(リズム体操など)  
・サーキット(ケンケンパ、トンネルくくりなど)  
・SON活動紹介  
協力: スペシャルオリンピックス日本

お問い合わせ先(東洋大学ボランティア支援室)  
☎: 03-3945-7927  
✉: mlvolsup@toyo.jp



## ボランティア支援室ガイダンスの実施

ボランティア支援室では、学生のボランティア意識向上を図るため、授業単位でボランティア支援室のコーディネーターによるガイダンスを実施した。概要は以下のとおり。

### 1. 実施コース

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| A. 概要説明・ワーク(注)・白山キャンパスボランティア支援室見学 | 90分コース    |
| B. 概要説明・ワーク(注)                    | 60～90分コース |
| C. 概要説明                           | 30分コース    |

(注) ワークはディスカッション等を行います

### 2. 実施日時

授業期間に授業単位での実施

### 3. 申込方法

- ① ボランティア支援室サイト内の申し込みフォームに入力
- ② 別紙の「ボランティア支援室ガイダンス申込書」に必要事項をご記入の上、ボランティア支援室（白山キャンパス・雨水会館1階）に提出

①②のいずれかの方法により申し込みを受付。

### 4. 実施実績（2019年度）

12件（4月…4件、5月…5件、6月…1件、10月…1件、11月…1件）

### 5. 受講者の感想（抜粋）

- ・はじめは近所でボランティアを行おうと思ったが、お話を聞いて県外や外国へのボランティアも行ってみたいと思った。
- ・震災を経験し、現地で活動するのがボランティアと思っていたが、日常の中にもボランティアがあるのだと知った。
- ・ボランティア活動の経験や感想を聞き、対象は弱者だけではなく様々な活動ができることを知った。もっと幅広くボランティア活動に参加したい。
- ・「ボランティア活動」と「奉仕活動」との違いを知ることができた。

# 東洋大学ボランティア支援室要項 .....

平成29年要項第3号・平成29年4月1日施行

## 東洋大学ボランティア支援室要項

### (設置)

第1条 東洋大学社会貢献センター規程第4条第4項に基づき、社会貢献センターに「東洋大学ボランティア支援室」(以下「ボランティア支援室」という。)を置く。

### (目的)

第2条 ボランティア支援室は、本学で実施する学生及び教職員によるボランティア活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与することを目的とする。

### (機能)

第3条 ボランティア支援室は、学生支援課をはじめ各部署が所管するボランティア活動と相俟って相互に連携及び協力するとともに、全学的な統括部署としての機能を有する。

### (業務)

第4条 ボランティア支援室は、第2条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) ボランティア支援室の方針及び計画の策定に関する事項
- (2) ボランティア活動の開拓及び実施に関する事項
- (3) ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供に関する事項
- (4) ボランティアに係る相談、助言及び支援策に関する事項
- (5) 学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整に関する事項
- (6) その他ボランティア支援室の目的達成に必要な業務

### (室長)

第5条 ボランティア支援室に、室長を置く。

- 2 室長は、社会貢献センター長とし、ボランティア支援室の業務を統括し、ボランティア支援室を代表する。

### (副室長)

第6条 ボランティア支援室に、副室長を置くことができる。

- 2 副室長は、本学の専任教授のうちから、室長及び学長の推薦により、理事長が任命する。
- 3 副室長は、室長を補佐するとともに、室長に事故があるとき又は室長が欠けたときは、室長の職務を代理し、又は代行する。
- 4 副室長の任期は2年以内とし、室長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

### (専門スタッフ)

第7条 ボランティア支援室に、ボランティア支援活動に従事する者として、専門スタッフを配置する。

- 2 前項のスタッフの任用及び職務等については、別に定める。

### (運営委員会)

第8条 ボランティア支援室に、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第9条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 室長及び副室長
- (2) 社会貢献センター運営委員会委員（通信教育部長を除く。）から互選した者 若干名
- (3) 室長が推薦する者 若干名
- (4) 学生部長
- (5) 教務部長

(委員の任期)

第10条 前条第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第11条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) ボランティア支援室の基本方針
- (2) ボランティア支援室の業務計画に関する事項
- (3) 学長から諮問された事項
- (4) その他ボランティア支援室に関する重要事項

(議長)

第12条 運営委員会は、室長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第13条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第14条 運営委員会は、専門的な事項について調査審議するほか、ボランティア支援室業務に係る企画立案等の作業を支援するため、専門部会を置く。

2 専門部会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

(業務計画)

第15条 室長は、当該年度の10月末日までに次年度の業務計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

2 室長は、各年度の業務の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。

3 業務計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(評価委員会)

第16条 ボランティア支援室が実施したボランティア活動等業務内容を評価し、その活動内容について室長に適切な助言をするために、評価委員会を置く。

2 評価委員会の運営及び評価方法に関する必要事項は、別に定める。

(事務)

第17条 ボランティア支援室の事務は、学生支援課その他関係部署と連携協力のうえ、エクステンション課が行う。

(細則)

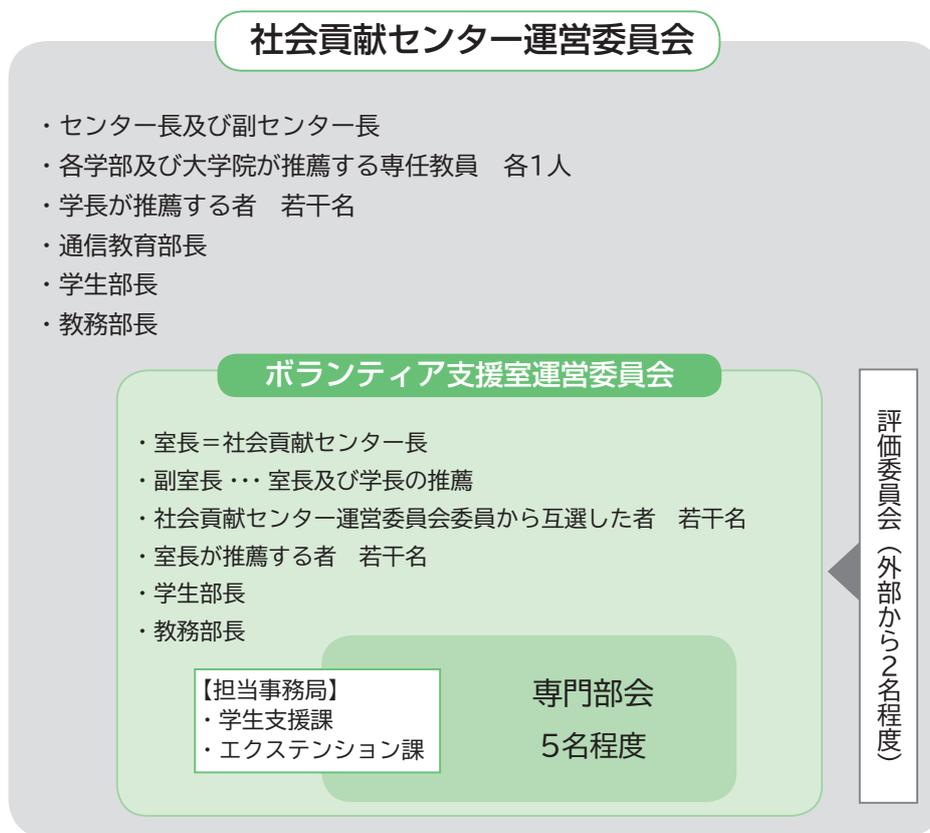
第18条 この要項の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

(改正)

第19条 この要項の改正は、学長が室長の意見を聴いて行う。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。



## ボランティア支援室運営委員会委員名簿

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	室 長	森 田 明 美

東洋大学ボランティア支援室要項第5条による  
(任期：2019年4月1日～2021年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	法 学 部	今 井 雅 子
板 倉	生 命 科 学 部	藤 村 真

東洋大学ボランティア支援室要項第9条2号による  
(任期：2019年4月1日～2021年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	室 長 推 薦 (文学部)	高 野 聡 子
白 山	室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
白 山	室 長 推 薦 (社会学部)	箕 曲 在 弘
朝 霞	室 長 推 薦 (ライフデザイン学部)	内 田 塔 子
川 越	室 長 推 薦 (総合情報学部)	小 瀬 博 之

東洋大学ボランティア支援室要項第9条3号による  
(任期：2019年4月1日～2021年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
朝 霞	学 生 部 長	中 原 美 恵

東洋大学ボランティア支援室要項第9条4号による  
(任期：2019年4月1日～2020年3月31日)

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	教 務 部 長	高 橋 豊 美

東洋大学東洋大学ボランティア支援室要項第9条5号による  
(任期：2019年4月1日～2020年3月31日)

## 専門部会委員名簿

所属キャンパス	所 属	氏 名
白 山	室 長 推 薦 (文学部)	高 野 聡 子
白 山	室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
白 山	室 長 推 薦 (社会学部)	箕 曲 在 弘
朝 霞	室 長 推 薦 (ライフデザイン学部)	内 田 塔 子
川 越	室 長 推 薦 (総合情報学部)	小 瀬 博 之
白 山	ボランティアコーディネーター	林 大 介
白 山	ボランティアコーディネーター	日 比 野 勲

## 外部評価委員

東海大学 市川 享子 講師

## (参考) 東洋大学 5キャンパスの学部配置

キャンパス	特 徴
白山 (東京都)	文系7学部 (文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光) 特に社会学部や国際学部、国際観光学部でボランティア活動が盛んに行われている。 また、ボランティアサークルも多数存在。
朝霞 (埼玉県)	ライフデザイン学部1学部 2021年度に赤羽台に移転予定。 こども支援や健康スポーツ等学科の学びは広く、それぞれにボランティア活動も行われている。
川越 (埼玉県)	理系2学部 (理工、総合情報) キャンパスと地元 (鶴ヶ島市、川越市) との連携して正課内外で多くの活動が行われている
板倉 (群馬県)	理系2学部 (食環境科、生命科) 学部の特色を活かした地域への貢献活動を中心に展開されている。
赤羽台 (東京都)	情報連携学部1学部 2017年に新設された新しい学部

## 2019年度 ボランティア支援室専門部会活動記録

第1回：2019年4月17日（水）17:30～18:30

### 報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告（授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況）
- ② TOYO 1Day ボランティア企画について
- ③その他

### 審議事項

- ①学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画について
- ②今年度の活動計画について

第2回：2019年5月29日（水）17:30～19:00

### 報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告（授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況）

### 審議事項

- ①東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業選考について
- ②その他

第3回：2019年6月26日（水）17:00～19:00

### 報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②夏ボラ企画
- ③その他

### 審議事項

- ①ボランティア WEEK 企画
- ② SO 日本、東京ユニファイド協定イベント 他
- ③その他

第4回：2019年9月24日（火）14:45～16:15

### 報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②【各種活動報告】
  - ・飯能市宿題サポートボランティア
  - ・福島の子どもに寄り添うプログラム（東洋大学学生課外活動育成会）
  - ・福島県いわき市の農業の現状を発信する（東洋大学学生課外活動育成会）

### 審議事項

- ①2020年度ボランティア支援室予算について
- ②人権週間におけるボランティア支援室イベントについて
- ③その他

第5回：2019年10月25日（金）13:00～14:30

### 報告事項

- ①ボランティア支援室利用状況報告
- ②【各種活動状況報告】
  - ・東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰
  - ・その他（白山祭出展、学生スタッフ活動等）

### 審議事項

- ①2020年度東洋大学人権週間 企画について（進捗状況の確認および新規企画）
- ②被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業 申込期間延期について
- ③その他

## ボランティア支援室外部評価

日 時	2020年3月
場 所	新型コロナウイルスの影響により事前面談の上、書面での回答
外部評価者	東海大学講師 市川 享子

通常は3月に外部評価者を招き、室長、ボランティアコーディネーター他とともに評価をいただいているが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、書面での評価となりました。

### I 判定(S~C): A

- S：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
- A：おおむね、ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
- B：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
- C：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

### II 総 評

ボランティア支援室は設立から3年間という短期間のなかで、貴大学において基盤を築き、学生の社会参画の機会を広く創り出している。活動のテーマも幅広く、またボランティア潜在層、初歩的なもの、宿泊型、学生の自主性が発揮される助成金を用いての支援など、学生の状況に応じたきめ細やかな対応が定着している。

一方で、ボランティア支援室の活動の受益者が白山キャンパスに集中しがちであることから、全学機関として、他キャンパスにおける支援室活動のあり方については工夫が必要と思われる。また、ボランティア活動への参画が学生のどのような力の育成につながるのか示すことで、学生にボランティア活動の重要性を伝えることができ、さらに学内の学内の各機関や教職員連携・協働が広がる可能性がある。

### III 概評及び提言

#### 1 理念・目的

〈概評〉

①ボランティア支援室の目的を適切に設定しているか。

ボランティア支援室の目的は「東洋大学ボランティア支援室用要項」に定められているが、大学や社会貢献センターとの関連のなかでは述べられていない。今後のボランティア支援室の貴学での更なる発展を考える際、貴学の社会貢献や教育理念との関連づけながら、目的をさらに明確化することが重要であると思われる。貴学の中期計画「TOYO グランドデザイン」で明示されている「活動のなかで奮闘する」と、ボランティア支援室の目的、方針、内容などを有機的に関連づけていくことなど、貴学独自のボランティア支援室の理念と機能を創り

上げていくことの検討を期待したい。

②社会貢献センターの目的を明示し、社会や学内と共有しているか。

ボランティア活用が有する多様性の理解や包摂に向けて、幅広いテーマのもと、学生の状況やニーズに応じた活動が進められている。創意工夫に基づいた活動の現状は大変高く評価されるべきである。今後は支援室によるプログラム提供に留まらず、過年度での評価でも指摘されているように、企画や活動のなかで学生の視点やリーダーシップが発揮されるようなプロセスを埋め込んだり、学生スタッフの育成を通じて、より学生のリーダーシップが発揮されることも期待したい。

③ボランティア支援室の目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

東洋大学の中長期計画のなかで、ボランティア支援室の目的、各段階に応じた計画を位置付けていくことが重要である。特に「TOYO グランドデザイン」の社会貢献分野で示される「活動のなかで奮闘する」の実現とはどのようなことか、支援室の運営委員会や専門部会での検討を通して、支援室活動と有機的な関連づけを明示していくことも必要である。その際参加型評価やプログラム評価の手法を用いて、ボランティア支援室の多様なステイクホルダーとともに、ボランティア支援室の中長期像を創り上げていくことも効果的で可能性がある。

〈提言〉

長所

ボランティア支援室設立から3年という短い期間で、基盤を形成し確実な成果を出している。

ボランティア室が現代的でタイムリーなテーマから活動を作り上げ、学生の参加の場を構築し、安定的な活動を推進していること。ボランティア支援室や学生の動向についてのデータの収集と分析がされており、支援室によるデータの蓄積が進められていること。活動の記録や定型的なフォーマットのもとに、毎回作成されており、記録の仕組みが構築されていること。

改善課題

- ・ボランティア支援室に学生の参画を広げること。ボランティア支援室の運営部門に学生委員を位置づけたり、学生スタッフの育成を通して、地域社会との協働を通して課題を解決に寄与し、リーダーシップを発揮する学生の育成が期待される。
- ・ボランティア支援室の受益者が白山キャンパスに偏りがちになってしまっている懸念がある。学内の複数の拠点やキーパーソン（各キャンパスや各部門で中心となる教職員や学生、地域関係者）を発掘し、目指す方向性を相互に確認・構築しながら、リソースも共有しながら展開することも効果的と思われる。
- ・ボランティア支援の目的・活動と大学教育の接続像が見えづらいので、その関連づけの議論によって貴学の教育力の向上にも寄与することも考えられる。今後はサービス・ラーニングのような社会貢献と教育と統合した教育プログラム／カリキュラムの開発等、大学の複合的な使命との関連づけについても検討を期待したい。

以上

2019 年度版  
東洋大学 ボランティア支援室年報

---

発行 2020年6月30日  
東洋大学 ボランティア支援室  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階  
TEL : 03-3945-7927 FAX : 03-3945-7601

